215970
2
昭和25年10月18日

プレウナ大戦七月廿日ノ初戦ヲ各戦跡実景ニ参観ス

魯土交戦ノ近況 第七号

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

魯土交戦ノ近況第七報ハ七月廿八日発
本月十三日及廿三日電信ヲ以テ報知セシ如ク頗ル方面ニ
於テ魯土ノ戦争ハ次第ニ捗取リ殊ニ本月十五日以来今日
迄欧州土領各地ニ於テノ戦争ハ大ニ観ルベキ者アリ即チ
魯兵ガ第二ノ天嶮タル「バルカン」山道ヲ踰ヘテ「ルーメリヤ」
「バルカン」ハ南ニ入リ進テ一ノ府ヲ陥イレ進ラ「アドリヤ
地方ノ総名」ノワポルノ鉄道ニ迫ルヲ以テ「ソフヒヤ」及「アドリヤノワポ
ルノ府民ハ驚怖シ我勝チニ土京ニ立退ク」及ビ魯兵ノ一
部ガ「コポルノ府ダニューブ河ヲ隔イシ甲鉄艦二艘ヲ分捕
セシ」及ビ他ノ一部ガ「スチユーク」「ラスクラウト」ノ間ニ出
デ其通路ヲ断チ進テ「ルスチユクヲ囲ミ又「ドブルヴア」ニ入
リシ極右翼ノ魯兵ハ「クスタンジ」「チヨルノウヲダ」ノ要害ヲ
奪取リ更ニ西向メ「リストリヤ」城ニ攻寄セ以テ東西二方

ヨリ金陽四面ノ通路金湯四面ノ解ハ先便ヲ第六号ニ記セリ
ビ土ノ驍将「ヲスマンパシヤ」ガ「ニコポル」ヲ援ハシ為メ「ウヰ
チヒ塔ヨリ出来リシガ本月二十日ヨリステ「プレフナ」ニ於テ
大ニ魯兵ヲ敗リシ等皆是ナリ此他英政府ガ魯兵ノ次第ニ
土京ノ方位ニ進ムヲ見テ頓ニ若干ノ兵ヲ遣ハシテ「モルモ
ラヤ」海ノ西隅ナル一大咽喉ノ地ガリポリ」ヲ占拠スルノ目
的及ビ小亜細亜ニ於テ敗績セシ魯兵再ビ立直シテ進撃シ
来ル等ヨリ下文交戦日報中ニ録スル百般事件ノ如キ甚タ
多事ノ時節トナレリ就中英政府ノ出兵ハ多少ノ影響ヲ起
スベキ重件タルヲ以テ前文交戦ノ略ヲ記セタル後此件ヲ
（今日迄知リタル丈ケ）詳記シ并セテ今般魯土戦争ノ
結果ハ如何ナル生面ヲ開クベキ歟ノ一二鄙見ヲ陳スヘシ
魯兵既ニ「シムニツア」ヨリ「ダニユーブ」ヲ越ヘ「シストホ」ニ拠
リ大兵陸続渡リ来ル於是ヲ諸軍ヲ分チ第九「コルプス」ハ一「コ
ス」ハ三「ルプス」ハ西向シテ「ニコポル」ニ進ミ中将「グルデネル」ヲ之ニ
ハ余ハ西向シテ「ニコポル」ニ進ミ中将「グルデネル」ヲ之ニ
将タリ又皇太子「セサレウヰッチ」親王ハ第十二十三ノ二「コ
ルプス」ヲ督メ東「ルスチユウク」ヲ囲ム為メ分府トテスグラ
ウトノ間ニ向テ進メリ但シ（弟十二番「コルプス」ハ皇太子ノ
弟「ウラヂミル」親王之ニ将タリ）而シテ大総督「ニコライ」親王
ハ自ラ大兵ヲ督メ南進シ「ボルガリヤ」ノ古都ナル「チルノホ」
ヲ以テ本営トセリ其兵数幾許ナルヲ詳ニセズト雖モ約七
八万ニ下ラザルベシ先ヲ是ヨリ「バルカン」向ヘル先鋒隊将軍
「グルコ」ハ本月七日ヨリステチルノホヲ陥イレ（先便第六号ヲ見ルベシ）
仝十二日仝氏ハ各種ノ分隊兵（皆騎兵ニ係ル）ヲ師トシテ分府
ヲ発シ翼十三日潜行シテ一険路ヲ歴遂ニ「バルカン」山脈ノ
南ニ出デタリ此険路ハ平生特ニ螺馬ノ通行スル所ニシテ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

車ヲ行ルヲ得ズ斯ル間道ナルヲ
ヨリ「クルコ」氏ハ銃九一発ヲ費サズシテ土ノ寺ヲ奪カリシニ
タリ今十四日山麓ニ在ル「カンキヨ」村ヲ守ル土兵三百人
ヲ敗テ之ニ拠ル此時魯兵死傷僅ニ三人ノミ今十五日十六
日ニハ「ヲフロルキ」「キヒテ」等村ノ辺ニ於テ連戦之ニ克ク今
十七日カザンリツクナル小駅ヲ抜キ轉メ此ニ向ヒ「ブカ」
村ヲ奪取リ以テ呼称シ「ブカ」越ノ頂ヲ守ル土兵ノ脊ニ出メ
リ村ハ即チ「ブカ」越ノ麓ニシテ水準上約弐千尺許ノ高地
ニ在リ今日「バルカン」山ノ此ニ在ル魯兵モ「ブカ」越ヲ経テ
山南ニ出ニ為メ歩騎二聯隊ヲ以テ攻寄セ就中哈薩克聯隊
ノ大佐ヲルロフ」名ノ指揮セル右翼ハ「ヤニナ」越ノ方ニ出テ
此処ニ於テ土兵十四「タボルル」ト「タボルル」ノ隊名ハ土
二人手負五人即死兵卒百人手負亦百人ニ至リタシ氏遂ニ

敵ヲ逐拂テ「ヤニナ」越ヲ占メタリ「ヤニナ」越ハ「ブカ」越ノ少
シク東ニ在リ此日「ブカ」越ノ本道ニ当リシ中軍並ニ右翼
ハ土ノ寺兵ニ倉ト烈戦セシガ志ヲ得ル能ザリシ然ルニ其
「プリンスミルスキー」ハ「ゼテラー」
陥イレシヲ聞キ十九日拂暁ヨリ再ビ兵ヲ進メタルニ土兵
ハ大砲八門隊旗三旅ヲ挙テ戦ハズメ遁走セリ於是ヲシテ「ブ
カ」「ヤニナ」「キヨイク」ノ三道ハ全ク魯兵ノ手ニ入リ此三
道中ニ就キ「ブカ」道ハ最安所ニメ武器兵糧ノ運輸モ皆此
道ニ由ルヲ得ベシ此山道ノ頂ハ水準上四千二百尺ニ及ベ
リ魯版「ばルガリヤ」ハ大図「拠ル」現下魯兵ハ備ヲ厳ニメ之ヲ守リ又哈
薩克及「ダラゴン」隊騎兵ハ大牛坂上メ「アドリヤノツホル」ト「ヤ」
ニボリニ連ナル鉄道ノ間ニ密接スル「卫ニサクラ」駅ニ達セ
リ蓋シ魯兵ノ「バルカン」ヲ南ニ入リシ者ハ現ニ其数五万人

ニ及ベリト云フ而シテ此等ノ兵ハ「アドリヤノツポル」ヨリモ先ツ「フヒリホ、リス」府ニ向テ進ミ此地ノ基督民ヲシテ悉ク土ニ叛カシメスシテ回民ヲシテ土地ヨリ悉ク逐拂ヒスシテ預ヒメ他日ノ地ヲ為スニ在リト云フ説アリ其果メ然ルヤ否ヲ知ラスト雖トモヒリポ、リス」及ヒ「アドリヤノツホル」二府ノ住民ハ魯兵ノ日ニ近フクヲ聞キ風声鶴唳ニ乍テ君士坦丁府ニ逃ルト者絡繹如織二府ノ知事ハ之ヲ能ク制スルノ力ナシト云フ爰ニ土ノ勇将「スレイマンパシヤ」ハ曩日「モンテ子グロ」ヨリ師ヲ班ヘシテ「バルカン」方面ヘ向ヘシカ其部下ノ兵一万八千人ヲ阮ニ「ヤンボリ」並ニ「ユニサクラ」ニ遣ハシ而メ自ラ残兵ヲ師ヒ不日ニ全斯ヘ出陣スベク又「アドリヤノツホル」ノ固メハ殆ント落成ニ帰シテ君士坦丁府ノ墓場兵ヲ悉ク此府ニ移セリト云フ本日魯国新聞ニ載スル

耶ニ拠レハ擒国ノ士官魯軍ニ従行スル者ヨリ本国陸軍卿ヘ報シテ云ク魯兵ハ「スレイマンパシヤ」ノ兵ヲ敗リ「ユニバザール」ヲ奪取シ、ト但シ「ユニバザール」ハボルガリヤ」ニモ「ハトメリヤ」ニモ同名ノ村アリテ其ニ固上ニ存スト雖モ「スレイマンパシヤ」ノ兵ヲ敗テ之ヲ占メシトアレハ地方ニテ即チ「アドリヤノツホル」ヨリ「フヒリポ、リス」ニ連ナル鉄道ノ南ニ在ル村ナルベシ斯シハ果シテ此報ノ如ク魯兵此村ヲ占メシ片ハ前ニ大府ノ通路ヲ截断セラレシト論ヲ俟タス且ツ魯兵ノ「バルカン」以南ニ在ル者ハ未タ糧伏共ニ充分ナラサルニ如ク是遠軍深入スルハ少シク女報ノ信偽ニ疑ナキ能ハス

(成ル砲隊准之)

偖又「ニコポル」ニ向ヒシ魯兵ハ第九「コルプス」(歩騎各ニ「ビウヒョン」ノ如シ)ヲ督シ悉キニ之ヲ囲ム」

数日ニシテ只向岸ナル「ツルヌマグシー」ニ在ル魯西亜並ニ
ロースマニヤ」ノ砲臺ヨリ連日焼撃シ市街大ニ破損シ住民ハ
大抵皆立退キ特ニ守兵ヲ残スノミナリシガ本月十五日午
前五時ヨリソノ「クルゾチル」ノ兵ハ全府ノ後面ニ在ル高地ノ
砲砦ニ攻寄セ激突戦夜九時ニ達シテ尚断ナカリシカ魯
兵遂ニ砦壁ヲ棄テ推入リ肉薄接戦シテ之ヲ抜ケリ此夜土
兵ハ市街ニ火ヲ放チ魯兵之ヲ減ス翌十六日暁五時半城将バッサ
レバシヤ」及ビ「アクメツトバシヤ」ハ守兵約六千人ヲ以テ遂
ニ降ル於是テ全府ハ全ク魯ノ手ニ入レリ「ニコポル」ハ土領
「ダニユーブ」河岸堅砦ノ一ニシテ市街ハ山腹ニ連リ山上
ノ天嶮ニ拠ヲ砲臺数所アリ又古城壁ノ甚タ堅固ナル者ア
リ初メ守兵ハ二万人ナリシトノ説アリシカ実ニ八千人
ニ過キザリシト雖戦闘双方ノ死傷甚タ多シト称スレ共今

ニ至ル迄其数ヲ記スル者ナキハ何故ナルヲ知ラズ只魯ノ
手ニ落チシ土兵ノ手負ハ三百人アリト云フ「ニコポル」ノ地
タル魯ノ為ニ一大利アルハ此処峡高クメ四方ヲ見渡シ河
幅ハ「ヒストホ」ノ辺ニ比スレバ甚タ狭キヲ以テ舩橋ヲ架ス
ルニ便リ此府ノ階イルヤ大砲四十門（多ハ口径ノ無施條砲ナリト云フ）
ト甲鉄艦二艘魯ノ手ニ入リ此ノ艦ハ連日魯ノ砲撃ニ由
テ破損シ而シテ乗組人ハ棄テ、遁去リシ者ナリ然レ共「ア
ヒキレー」敦王ヨリノ公報及ビ新聞探偵者ノ月撃シテ報
スル所ニ拠ニ水平線下ハ破損ナキヲ以テ修復ヲ加レバ久
シカラズシテ再ビ用ユルヲ得ベシト云フ果シテ然ラバ
土ノ海軍士官等ハ何等ノ人物ナルヤ真解ゝベカラス魯兵
ハ此府ヲ領セシ後直チニ「ツルニマグシー」ヨリ舩橋ヲ掛ケ
且ツ土ノ砲臺ニ巨砲ヲ据付ケ以テ甲鉄艦丁一ノ襲来

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ニ備ヘタリ

「ルスチユツク」ヲ囲ム為メ今府ト「ラスグラツト」ノ間ニ進撃セシ兵ハ前ニ記スル皇太子既ニ二府ノ間ニ在ル鉄道駅皇太子ノ留スル兵ニ係ル「」トフアヲ占拠セシニヨリ「ワルナ」シユムラ「ラスグラツト」等ヨリ「ルスチユツク」ヘノ通路ハ全ク絶ヘタリ近報ニ拠バ皇太子ノ兵ハ現ニ「ルスチユツク」府ノ附近ニ在リト雖モ未タ攻撃ヲ始メス是レ恐クハ郷者「ドブルヴア」ヲ占メシ極左翼「チンメルマン」ノ兵ガ「」リストリヤ」ニ進撃スルヲ待チ全時ニ二府ヲ合撃メステ相援フヲ得サラシムルノ策ナルモ知ルベカラス「ルスチユツク」ハ現ニ守兵五万人アリト云フ今府ヨリ東廿五里日本里許ニシテ「」リストリヤアリ此二府ハ斯謂金湯四面ノ二ニ居ルヲレステ必ス一大劇戦アルベキノ理ナリ

ドブルザ」方面ハ先便第六号ニ報セシ如ク土兵ハ「コチニ」「ヒルソホ」等諸府ヲ棄テ「チユルノウオダ」小「クスラン」ノ守線ニ退キ「レスラ」魯兵ノ侵入ニ備ヘシガ本月十六日魯将「チンメルマン」ハ「コルプス」ノ兵ヲ師ヒテ「メヒー」ニ向ヲ進ミ未ルメチヒー」ハ「クスラン」ト「チユルノウオダ」鉄道ノ中間ニ在リ砲戦三時後魯ノ騎兵一「ブリガード」ハ土ノ右翼ヲ衝ク土兵支ヘスメ退ク於是テ全軍進テ「メヒチー」ノ近辺ニ陣シ「チユルノウオダ」ト「クスラン」ノ方ヘ各一大隊ノ兵ヲ遣ハメ之ヲ攻ム土兵能ク之ヲ支ユル者ナシ就中「クスラン」ノ如キハ守兵殊ニ少ナク而メ本月十三日ヲレステ悉ク立退キタリト云フ於是ニ手ドブルジヲ地方ノ要害タル守線ヲ殆ト抗拒スル者ナクメ魯兵ノ手ニ入レリ斯ルハ兼テヨリ世人ノ待ヶ構ヘタル血戦ハ纔然

タル夢遐ニ帰シ而メ日国将校等ノ評論ヲシテ遂ニ知言ノ
名ヲ湧セシメリ第六号見ヨ今十七日魯ノ中軍ハ「メシチー」ヲ発
シ二隊ニ分シ一ハ「ザルゲツク」ニ向ヲ進
ミ行ケリ「シリストリヤ」ニ向ヒシ兵ハ現ニ「ラツソワ」ヲ囲メ
リ「ラツソワ」ハ「千ユルノウオダ」ノ南三里半日本里程「シリ又以下同シ」
トリヤ」ノ東十三里ノ所ニ在ルガ二ーブ」河岸ノ一府ナリ
「グステンゲ」港ハプリンステルロフ氏武官ニヲ鎮台ヲ兼子
欠官ノ首長ハ以前ヨリ全港ニ駐劄セシ魯ノ副領事某之ニ
任ゼリ
ス上記載スル所ヲ以テ見ルベキ如ク魯軍ノ兵略ハ欧州方
面ニ於テモ亜細亜方面ノ兵略ニ異ナラス兵ヲ諸道ニ分テ
以テ敵ノ声援ヲ断チ而シテ他ノ一部ヲ以テ直前突入シ敵
勢ノ未タ合ハサルニ乗シテ之ヲ挫折スルヲ旨トセリ而メ

彼ニ於テハ一旦敗シヲ取リタレ共此ニ於テハ今日迄意外
ニ速効ヲ奏セリ或人云ク此戦略ハイクナチユフ氏ノ建議
ニ係ル全氏ハ多年土国ニ駐劄シテ土国将帥等固ク事ニ及
ハサルノ性質ト内国通路ノ遅緩ナルト在廷顕官オ閥敗魂
襟異論百出ノ風アルヲ熟知スルニ由シリト或ハ然ルモ知
ルベカラズ現ニ元帥「アブヅルケリム」ト陸軍卿「ミフパシ
ヤ」ハ既ニ職ヲ襟ハシ出陣先ヨリ帰京ヲ命セラレ二人共軍
事裁判ニ処セラルベク而シテ陸軍卿ハフユザン地名ヘ謫セ
ラルベシト云フ「アブヅルケリム」ニ代テ元帥ノ任ヲ命セラ
レシ者ハ「メクメツトアリパシヤ」名十リ初メ「アブヅルケリ
ム」ノ如キニ在ルヤ当時魯兵ノ中多カラズ「ヲスマンパシヤ」ハ頻リニ「ロリマニヤ」ニ逆推セ
シヨヲ勧メタレ共「アブヅルケリム」ハ之ヲ聴カズ其後魯兵

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

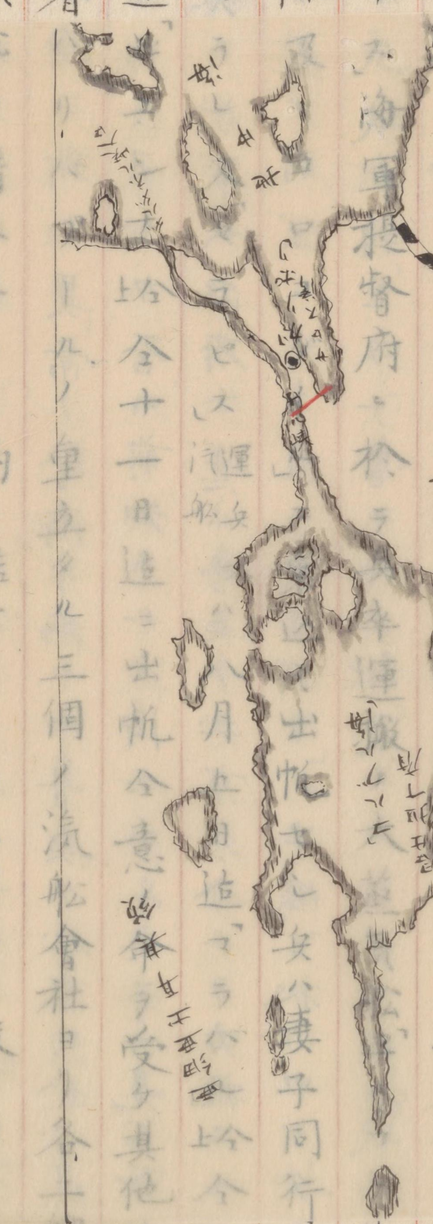
「ビムニツアヨリ「ダニユーブ」ヲ渡リ「レストホ」ニ拠ル二方テ
容将「カラプカ氏」「ボンガリヤ」人ニテ千八百四十八年墺国ニ
叛テ兵ヲ挙ケシ有名ノ騎将ナリ先頃ヨリ
土軍ニ在テ軍務ニ與カシカ「ウヰゲン」ニ「コポルン」ノ塔ヲ撤
今ハ去ヲ龍動ニ在リ
メ連ニ「バルカン」ヲ固ムベキノ議ヲ主張セシガ「アブヅルケリム」ノ破職セラ
リム」ホ之ヲ聴カザリシト云フ「アブヅルケリム」ノ不行届ニヨリ全
レシハ帝ニ連日ノ敗報アルニヨルノミナラズ「ユムラ」ノ
営中ニ在ル一将校ヨリ「アブヅルケリム」ノ不行届ニヨリ全
軍ニ死スル士兵百分ノ三十八用ヲ為ザル旨ヲ土帝ニ直
訴セシニノ坐スルトニフ
爰ニ近日「ボルガリヤ」方面ニ於テ魯兵ノ敗北セシハ本月廿
日「プレフナ」ノ一戦是ナリ「プレフナ」ハ「ニコポル」ヨリ西南十
里程ノ距離ナル一駅ニシテ東ハ「ベラ」南ハ「ロフチヤ」西
南ハ「リコウ井ケ」ニ通スル三道ノ合スル所ニ在リ是ヨリ先
キ「ウイゲン」ニ在ル土ノ騎将「スマンパシヤ」ハ「ニコポル」ノ
急ヲ聞キ「ウイゲン」ハ「ニコポル」ノ西約
我カ四十五里ノ距離ニアリ援兵ヲ肺ヒテ来リシ
カニヨポルノ既ニ陥イリシヲ聞キプレフナニ駐シリ本月
二十日魯兵第九コルプス中ヨリ中将「ルデル、ヒュルド子
ル」ハ歩兵三聯隊(九千人)即チ「アルカンゲル」「ウラロゴグ」相應
ノ騎兵砲兵ヲ帥ヒ「プレフナ」ニ在ル敵ヲ破テンカ為メ全氏
ハ自ラ「アルカンゲル」「ウオログドノ二聯隊ヲ率ヒテ並ヨリ
シ「コストロマ」聯隊ハ大砲八門ヲ以テ東ヨリ進テ合撃セシ
ガ奮戦数時遂ニ土兵ニ敗ラレ「シュルドネル」ハ其隊ヲ以テ
「ベラ」街道ヘ向ケ退ケリ此ニ聯隊中ノ死傷ハ即死「アルカン
ゲル」隊ノ大佐「ローゼンボム」人名及士官十四人手負ブリガー
ド」ニ聯隊ハ即チ「ブリガー」司令官少将「クルリンゲ」名及士官三十六
人而シテ兵卒ノ死傷ハ千八百七十八人ニ及ベリ斯シハ弥

ト全軍三分ノ一ヲ損セリ「コラストロマ」聯隊ノ司令官大佐ノ「レイン」ハウスン」名ハ戦死シタル兵其隊ノ行方並ニ死傷ハ審ナラス但ラクハ亦前ニ聯隊ニ減セザルヘシ戦争時間ハ何時タリシヲ記スル者ナシト雖モ一日ノ戦ニ九千ノ兵其三分一ヲ失セシハ一大苦戦ト謂フベシ是ヨリ欧州方面ニ於テ魯兵ノ始メテ大敗セシモノニテ土京ノ公報ニ拠ハ次日魯兵ノ再ヒ寄来リシ者ヲモ再ビ撃テ之ヲ走セリト云フ魯兵ノ斯ル大敗ヲ取リシハ敵ヲ侮テ探偵ヲ遣サズ唯手シテ之ヲ蹂躙セント見込ミ及ノ之「ヲスマンパシヤ」ハ敵勢ヲ審ニメ以テ之ニ応セシニ相違セシ何トナレバ「プレフナ」ハ別ニ山河ノ要害及堅塞等アルニアラズ只水準上四百五十九尺ノ地ニアル一駅タルニ過キザレバナリ魚然此一敗ハ固ヨリ魯軍全局ノ為ニ消長ヲ為ニ足ラズ特ニ敵兵ノ暮気ヲ引立ツルニ過キザルベシ此戦ハ本日迄接到セシ「タイロス」ニモ詳ヲ記セシ者ナク只ニ魯国ノ公報ト新聞ニ基ヒテ記スルノミ

英政府兵ヲ「ガリポリ」ニ送ルノ風説

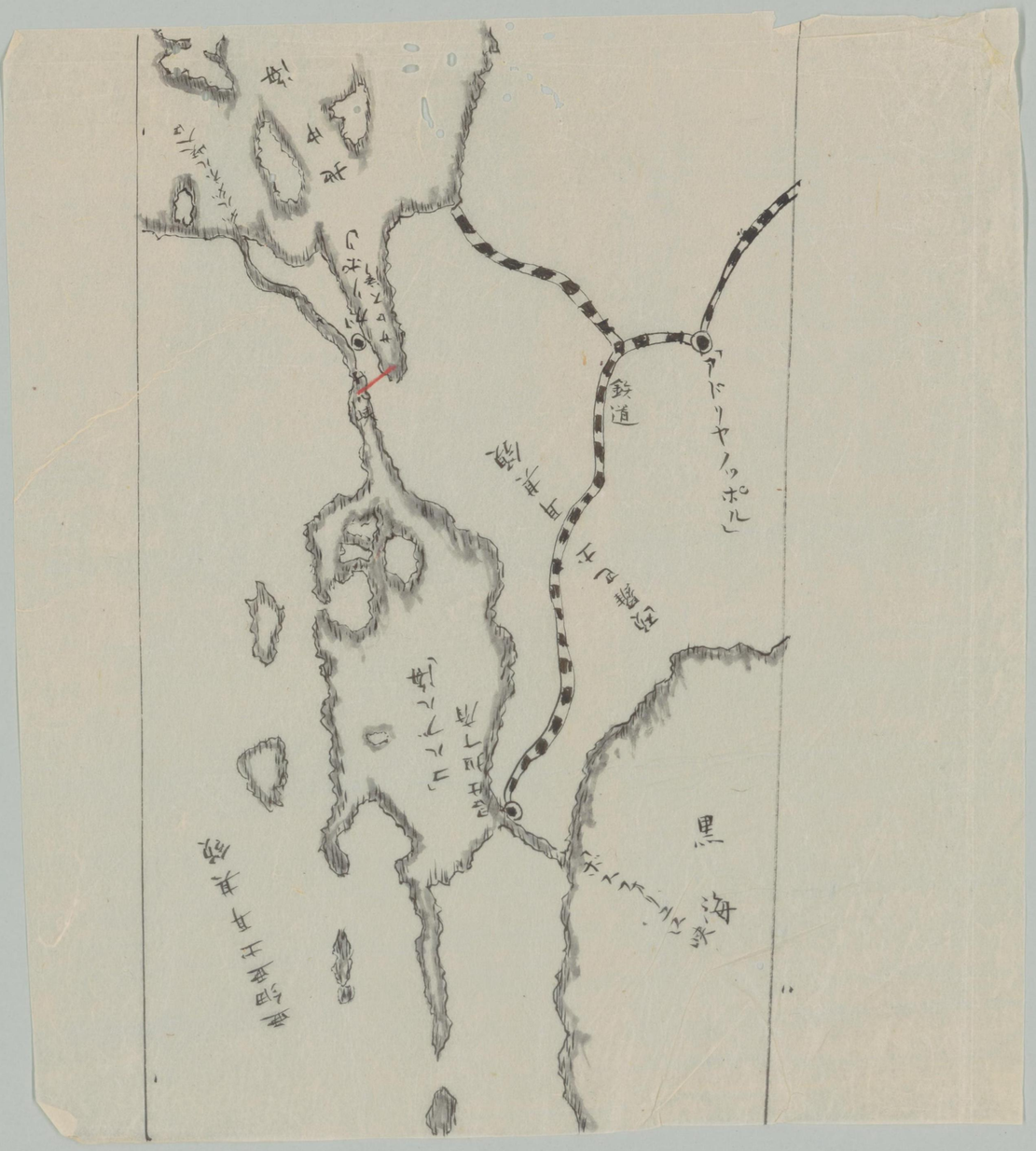
魯兵既ニ「バルカン」山ヲ踰ヘ頻ニ前進スルノ報日ニ盛ナルニ由リ墺英二国ノ物議紛然但シ墺政府ハ未タ別ニ為ス所アラズト雖モ英政府ハ前日既ニ艦隊ヲ「ベシカ」港ヘ送レリ先使ノ来ヨリ其後又密議アリテ遂ニ陸兵ヲモ派出スルニ決セリ此事頃ニ欧州各国新聞上ニ露布シテ大ニ政界世界ヲ動揺セシメリ皆云ク英政府ハ兵弐万人（或ハ云ク弐万五千人）ヲ直ニ「マルモラ」海ノ西隅即チ「ダルダネル」峡ノ左岸入口ヨリニアル「ガリポリ」ニ遣ハシ以テ此半嶋ヲ占拠スベシト蓋シ英政府ノ密報ハ当府ニ特駐剳ノ英大使「ロルドロフチユス」氏ニ達シ来リシニハ顕然ニテ同氏ハ急ニフトヒーランド」ノ旅行先キヨリ帰

来り頗ル不安ノ色アリ予米公使ヲ訪テ之ヲ叩クニ米公使ハ為ラク是レ英政府中立ヲ破ルノ端ナリト時ニ米国陸軍士官ノ龍動ヲ経テ着セシ者坐ニ在リ云ク予数日前龍動ニ在テ二万ノ兵ヲ演スルヲ見ルニ名ハ妹演ニ非スト雖モ其実ハ出兵ノ為メ女王自ラ點検セシナリト又龍動銀行ノ相場ハ頓ニ下落シ又外交家口耳相接シ大国政府間秘号電信ノ往復最モ繁ヲ極メリトニヲ其勢将サニ不日ニ一大事起ラントスル者ノ如シ予於是ニ直ニ此風説ヲ電報シ飛耳張目スルテ事ノ歩ミヲ待ツ茲ニ日アリ本日到接ノ「タイムス」七月廿四日付ヲ閲スルニ本月廿三日ノ夜下院ニ於テ大蔵卿カハルヲ「グラッドストン」ノ間ニ答フル所ト上院ニ於テ外務卿カ「グランウイル」氏ニ答フル所ニテハ現下欧州不穏ニシテ且ツ睦援ノ時勢ニ會シ我兵ノ地中海ニ在ル者「チブラルタル」鳴「マルタ」常数ヨリ



減セリト信ス此事世間ノ浮説ヲ惹起セシニ外ナラス大蔵卿ノ造語ハ補フ所アルヘシト雖モ其欠ヲ補フニ足ラス之ニ類スル者ハ固ヨリ論ヲ俟タス現ニ英国ポーツマス海軍根督府ニ於テ兵士ノ妻子同行ヲ禁セシ如キ是ナリ

日廼「ヨーロッパ」号ハ今十一日迫ニ出帆今ハ意ヲ受ケ其他軍省ノ汽船ヲ借入ルノ約ヲ結ヒタリト云フ等ノ報ニ由テモ英政府非常ノ警備ニ従事スルヲ知ルヘシ蓋シ英兵ハ先ツ



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

来り頗ル不安ノ色アリ予米公使ヲ訪テ之ヲ叩クニ米公使ハ為ラク是レ英政府中立ヲ破ルノ端ナリト時ニ米国陸軍士官ノ龍動ヲ経テ着セシ者坐ニ在リ云ク予数日前龍動ニ在テ二万ノ兵ヲ演スルヲ見ルニ名ハ妹演ニ扎スト雖モ其実ハ出兵ノ為メ女王自ラ點検セシナリト又龍動銀行ノ相場ハ傾ニ下落シ又外交家口耳相接シ大国政府間秘号電信ノ往復最モ繁ヲ極メリト云フ其勢将サニ不日ニ一大事起ラントスル者ノ如シ予於是ニ直ニ此風説ヲ電報シ飛耳張目スルヲ事ノ歩ミヲ待ツ茲ニ日アリ本日到「接ノ「タイムス」廿七月廿四日ヲ閲スルニ本月廿三日ノ夜下院ニ於テ大蔵卿ガハルヲ「ゲートン」ノ間ニ答フル所ト上院ニ於テ外務卿ガグランウイル」氏ニ答フル所ニテハ現下欧州不慥ニシテ且ツ睦援ノ時勢ニ會シ我兵ノ地中海ニ在ル者「チブラルタル」ヲ鳴「常数ヨリモ減少ナリト信スルニ付其欠ヲ補フ為メ三千許ノ兵ヲ造ハスヿニ決セシ而已此事世間ノ浮説ヲ惹起セシニ外ナラズ」トノ遁詞様ナル数語ニ止マレリ大蔵卿ノ語ニハ兵数ヲ「ニ派シテ其欠ヲ補フトハ云ヘリ」兵事ハ固ヨリ機密ニ係ルヲ以テ二院ノ間モ之ニテ息メリト雖モ英政府ノ密意ハ固ヨリ右等ノ謎語ニ類セル口吻ヲ以テ解スベキニアラズ現ニ英国「ポーツモース」海軍提督府ニ於テ兵卒運搬ノ大蒸気船「ウフレー」「船」及ヒコロコダイル」ニ乗込ミ出帆セシ兵ハ妻子同行ヲ禁ゼラレ又「セラピス」「運兵大船」ハ八月五日迄「マラバル」「上仝八日迄」「ビユーナ」「上仝十一日迄ニ出帆仝意ノ命ヲ受ケ其他海軍省ハリバプール」ノ重立タル三個ノ汽船會社ヨリ各二艘ノ汽船ヲ借入ルヽノ約ヲ結ビタリト云フ等ノ数ニ由テモ英政府非常ノ警備ニ従事スルヿ知ルヘシ蓋シ英兵ハ先ウ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

マルタ嶋ニ登陸スベシト雖モ其目指ス所ハ伊
嶋ニ在ルヿ明カナリ
英政府カ斯ル異常ノ警備ヲ為スハ魯兵ノ土京ニ入ルヲ力
拒スルニアリヤ否ハ前知スルヲ得ズト雖モ予ガ見ル所ヲ
以テスレバ英政府ノ意ハ魯兵ノ土京ニ入ルヲ力抗スルニ
アラズノ時宜ニヨリ自ラ「ガリポリ」ノ半嶋ニ拠リ以テダル
ダネル」峡ヲ鎖シテ魯ヲシテ即チ「ボスフオリユス」峡ヲ得
ルモ地中海ニ出ツルヲ得サラシムルニアルベシ魯ハ時宜
ニヨリ一旦土京ヲ陥イルトモ知ルベカラズト雖モ差詰メ
取ラ自ラ鎖セザルハ論ヲ待タズ魯モシ土京ヲ併セザレバ
英モ亦「ガリポリ」ヲ併セザルベシ英ノ魯ヲ疑フハ終古釈ク
ベキニアラズ英ハ以為ラク我シ魯帝ノ誓言(客冬十一月ヲ
信スルヨリハ手短カニ啓詰ヲ取置クニ如ズト而メ此証詰

ナル者ハ則チ「ダルダネル」峡是ナリ何トナレハ假令魯ハ土
京ヲ併スノ日アリ氏英モシ「ガリポリ」ノ半嶋ニ拠リテ「ダ
ルダネル」峡ヲ占ムルヿハ「ボスフホリユス峡ハ何ノ用ヲモ
為サバレバナリ且ツガリポリ半嶋ノ地形タル三面ハ軍艦
ヲ以テ守ルベク而シテ其大地ニ連ナル一狭処ハ即チ図上ニ画セル
僅ニ我カ二十二町余ニ過キザルヲ以テ此処ニ砲墓ヲ
築キ更ニ右ハ「ダルダネル」峡左ハ「サロス」湾ヨリ戦艦ヲ以テ
之ヲ護スルヿハ此半島ハ殆ト陥イルヿ能ザルベキノ地タ
リ英人海軍ハ強大ナリト雖モ魯兵ノ長駆シテ土京ニ入ル
ヿヲ妨クル能ハザルヤ必セリ然ドモモシ英兵二三万其海
軍ト合シテ以テ「ガリポリ」半嶋ヲ守ルヿハ魯兵強且ツ大ト
雖モ之ヲ抜ク能ハザルヤ亦必セリ故ニ魯ノ赤タ「ガリポリ」
ニ至テハ及テ英既ニ此一大要害ノ地ニ注目垂涎スル

ハ狡猾極ルト謂フベシ且ツ英兵假令「ガリポリ」ニ拠ルモ未タ之ヲ以テ中立ヲ破ルノ手段ト為スヲ得ズ何トナレバ「ガリポリ」ハ土領ニノ魯領ニアラサレバナリ英政府嚮者五ケ條ノ問題ヲ出シテ以テ「エヂプト」峡ベルシヤ湾等ヲ惜メ今又轉メ「ガリポリ」ニ拠リ以テ其所謂英国ノ利益ナル者ヲ保護セントス欲シテ忌色ナキハ豈ニ斬謂得隴又望蜀ノ謂ニアラズヤ世人注シ魯ヲ目メシテ蠶食ノ事トスト為スモ亦可ナリ予ハ則チ英ヲシテ更ニ甚敷ト為スヲ為ス

亜細亜方面ノ近況

亜細亜方面ノ魯兵敗走セシハ全ク敵ヲ侮リ諸道ニ兵ヲ分テ深入セシ失策ニ生セシニ漫疑ナシ現下総将「ロリスメリ」コフ」ハ「クルクダフ」ニ在テ再タビ兵勢ヲ立直シテ前進ノ用意ヲ為セリ又土将「ムクタルパシヤ」ハ「カルス」城ノ南ニ陣シ以テ魯ノ侵入ヲ待テリ其後此方面ニ於テハ記スベキ程ノ戦ヒナシ土兵モ亦敢テ魯領ニ押入リシ報ナシ「カルス」城ノ囲ミヲ解シハ魯兵ノ自ラ退キシニテ敗走セシニアラズ

雑報数則

魯兵ハ「ダニユーブ」河口ナル「スリヤ」ロヘ船ヲ沈メシヲ土艦ノ入来ヲ妨ケリ現下其深サ僅ニ四尺ニ過ギス当日欧州牧会「ダニユーブ」汽船社ヨリ異論ヲ立タレド斯謂泣眠ニ帰セリ

黒海ニ在ル魯ノ一汽船「ウエスダ」ハ元来軍船ニアラザレバ民之ニ大砲ヲ装セシテ「ルートメリヤ」ヤ海峡ヲ航シ「クスランド」ノ沖ニ於テ土ノ甲鉄艦ト會戦シ乗組死傷多クシテ大ニ破損セリト雖モ幸ニ「ヲデツサ」ニ帰帆スルヲ得タリ此事魯国士官等ノ豪膽ナルヲ証スベシ事ハ下文交戦日報ニ詳ナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

・寺嶋外務卿殿

モハヤ更既ニ深ク今次戦争結果ノ鄙見ヲ記スルノ時間ナキヲ以テ掬筆ス請フ之ヲ恕セラレヨ

明治十年七月廿八日　榎本武揚

又之一時有名タリシ夫ノ円状甲鉄艦ボハフカ二艘ハ「ヲデワサ」港内ニ蟄シテ外航セズ故ヲ以テ此二艘ハ全ク敵戦ニ適セザル船ナリトノ説アルヲ致セリ

「モンデネグロ」ハ土兵ノ退去セシヲ以テ再ビ前進ノ「ニクシチヲ囲メリ「ローマニヤ」勢ハダニユーブ」ヲ越ヘテ土領ヘ打入ハベシトノ説多シ「ギリシヤ」国ハ程ナク国境ヲ越ヘテ土領ヲ犯サントスルノ色アリヤセルヒヤ」ハ未タ兵ヲ擁ルベキノ確証ナシイタリヤ」ハ密ニ魯ト約ヲ結ビシトノ声迚アレ氏信シ易カラズ佛日二国ノ間柄ハ変形ナシ墺国ノ政略ハ不相替模稜ニシテ痕ナシ英魯ノ間ハ文迥甚悪シト雖モ差詰メ開戦ノ様子ナシ土ハ政略等大ニ変ニ人ニ自ラ危ミ上下相挙テ時難ノ底止スル所ヲ知ラサルガ如シ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

囚虜臨車規則（但シ囚虜ハ是迄内務省ノ支配ニ係リシガ種々不都合アルニ由テ更ニ改メテ陸軍省ノ配下ニ移シ囚虜規則中左ノ款々ヲ挙テ施行スル者ナリ）

イ　国内ニ在ル囚虜ハ総テ陸軍省中参謀局ノ支配ヲ受ル事（囚虜規則第三十條）

ロ　国内ニ在ル囚虜ハ地方ノ鎮臺兵ニ隷ヶ而シテ兵卒全様タルベキ事（同第三十一條）

ハ　国内ニ在ル囚虜ハ其在所鎮臺兵指揮官ノ直支配ヲ受クベキ事（同第三十三條）

ニ　囚虜取締ノ為メ其在所ノ鎮台兵ヨリ士官並ニ兵卒ヲ附置キ又囚虜取締便宜ノ為メ囚虜ハ分隊（半小隊小隊又囚虜多人數ノ時ハ半中隊中隊等ニ分割スベキ事（同第三十四條）

ホ　囚虜ハ人民ノ安堵ヲ害セザル為メ及其他各種ノ故障ヲ惹起サヾル為メ一切兵卒同様ノ取扱ヲ受クベキ事（同

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

第三十五條）

ハ地方鎮臺兵ノ支配下ニ在ル囚虜ハ空兵営ニ在シムベク若シ空兵營ナキ時ハ私宅ニ僑居セシムベシ尤モ住方ハ一切兵営同様タルベキ事（同第三十六條）

ト多人數ノ囚虜臺場中ニ住セザルヲ得ズ

墓兵長ノ差圖ニヨリ適當ノ兵數ヲ以テ其囚虜ヲ取締ルベキ事（同第三十七條）

チ囚虜ハ其宗旨ヲ行フヲ自在ニシテ他ヨリ妨クルヲ得ズ然レドモ囚虜隊中ノ規則ニ悖ルヲアル時ハ之ヲ許サズ（同第五十七條）

リ囚虜ノ所有物ハ武器ヲ除ク外一切之ヲ取上ルヲ得ズ而シテ囚虜歸國ノ節ハ其従前ヨリ所持セル品並ニ其囚虜中ニ整ヘシ品一切ヲ附シ送ルベシ然レドモ武器ニ至テハ斷然戻スヲ許サズ（同第五十八條）

ヌ囚虜ハ魯国ノ軍規ニ従ヒ且ツ事アル時ハ軍裁判ニ係ル此件ハ囚虜魯兵ノ配下ニ就ク方テ布告スベシ（同第五十九條）

ル囚虜モシ公然騒乱ヲ醸シ又ハ多人數ニテ脱セントスル時ハ兵器ヲ以テ之ヲ制スベシ而シテ一人ノ囚虜タリ共其脱セントスルニ於テハ呼迫サルヽニ頓着セズ遂テ脱セントスルニ於テハ兵器ヲ用ヒテ之ヲ制スルヲ得ベシ（同第六十條）

ヲ囚虜脱セントメ捕ハラレシ者ハ裁判ヲ受ケズト雖モ嚴重ノ監察ヲ被ル事（同第六十一條）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ロ 囚虜ハ他ヨリ救助ヲ受ルヲ得ベシト雖ニ其在所鎮臺兵
長ノ許可ヲ得且ツ少ラズ同長ノ立會ヲ経ベキ事（同第
六十二條）
右ノ款々ハ囚虜臨事規則中ノ最モ重ナル者ナリ
山本清堅戦場ヨリノ来翰
然者下拙等儀去十六日「プロスシテ」本営ニ於テ第九番軍本
営附属ニ被定候旨書付ヲ以テ承知シ且ツ可成早目ニ同所
ヲ出立シ「ズテテナ」ヘ赴キ候方可宜トノ儀モ承リ候ニ付同
十七日ニハ諸支度相整方ニテ甚タ混雑セリ下拙等ハ御存
ノ通リ僅計ノ荷物ヲ携ハ候而已ニテ別段野営ノ要用物モ
所持不致候処本営ニテ「ゼ子ラ」ヒ等ヨリ被申聞ニハ左ノ品
々ハ是非当所ニテ相整ハ所持セズ候テハ不都合ナルベシ
ト則下拙等ノ乗馬、荷物運送ノ馬車一輛、是ニ附スベキ馬ニ
疋天幕御者二人其他食物等煮テ営好ノ物ハ此地ニテ買入
可然トノ事ニテ十七日ハ終日右ノ品々買入方等ニテ漸ク
夜十時過迄ニ相齊ヒ翌日出立ノ段ヲ届出タリ同十八日午
後二時半「プロスシテ」ヨリ汽車ニテ出立シ夜十時「ピテシト」
ヘ着セリ汽車ハ今晩爰ニ滞留スルヲ以テ下拙等ハ市中ニ
至リ一「ホテル」ヲ探出シ爰ニ一泊セリ同十九日午前十一時
全所ヨリ出車シ午後四時ニ「スラテナ」ヘ着セリ「プロスシテ」
ヨリ此所迄ハ惣テ官費ニシテ下拙等一銭ヲ拂ハズ尤モ下
拙等ハ「ローマニヤ」語ニ通ゼザルヲ以テ中途甚タ不都合ナ
ラント察シ一人ノ「コンミショ子ル」ヲ雇ヒタルニヨリ其段
モ本営ヘ届置タルニ彼モ下拙等ノ呂連人トナリテ官費ナ
リ中途「ステーショ」ニ電信ヲ以テ通シアリシニヨリ下拙等諸所ヘハ已ニ甚タ丁寧ニシテ甚タ都合
ニ着スル毎

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

工部省

里シク下拙者ニ従フ者ハ馬四疋足、馬車一輛、人足二人、案内者
一人アリシト雖モ平生ノ旅トハ違ヒ少シノ不都合モナク
シテ「スラナナ」ハ達セリ仝所ニハ第九番軍ノ本営アリテ諸
兵モ必陣中々々賑シク下拙等ハ直ニ本営ヘ出頭シ参謀長「ゼ
子ラール」シュニッコロ大将「ゼ子ラール」クリデ子ル」面會
シ大惣督府ヨリノ書付ヲ出シ萬事可然可頼旨ヲ申出シニ
彼等ハ甚タ丁寧ニ應ゼラレ不日当所ノ軍モ出発ノ筈ニ付
夫迄ノ間当所ハ滞在スベキ旨申聞ケラレ仍リ仝十九日滞
在当所ハ一帳ニシテ町家モアリト雖モ至テ小キ場所ニテ
家軒五六百ニ過キズ四方高岡ニシテ其間ニ狭マリ坐シ而
端ニハ「ヲリメ」河流レテ「ダニューブ」ニ入ル此邊暑氣實ニ甚
タシク日中ハ堪ヘ難キ様ナリト雖モ間々涼風アリ且ツ夜
ニ入テハ大ニ替リ冷氣走来ルヲ以テ暑労ヲ減スルヲ得

同廿日本営ニ於テ明日ヨリ出発可相成旨ヲ承知セリ仝廿
一日朝十一時諸荷物ハ輜重方ヘ送出シ午後一時本営ヨリ
大将始メ外國士官等ト共ニ馬上ニテ出発宿端ノ大原ニ至
レバ諸隊既ニ整列シ「ゼ子ラール」ハ悉ク点検ノ後出発ノ令
ヲ下シ諸隊惣テ繰出ス外国士官等ハ悉ク其國ノ兵卒ヲ召
連レ来レルヲ以テ別段兵卒ヲ召付ケラレズ下拙等ハ其従
卒ナキヲ以テ「ドラグン」騎兵壹人ヲ下拙等ニ附属セラレタ
リ諸軍繰出シ終リテ後テ續テ本営人數モ馬上ニテ行路タ
六時ニ「ボチヤナ」村ニ着シ諸隊ハ近邊ノ野原ニ布屋ヲ張リ
予等ハ一軒ノ百姓家ヲ借テ爰ニ一泊セリ他ノ人々ハ或ハ
百姓屋ヲ借リシ者モアリ又布屋ニ泊セシ者モアリ今日
ノ行軍ハ二十「ウヨルスト」ニメ下拙等ハ馬上行ニ少シク労
ヲ覚ヘタリ「ゼ子ラール」シュニッコ」ハ已ニ七十近キ年齢

ナレ𪜈若輩ト共ニ馬上行少シモ労セシ色ナク實ニ驚クニ堪ヘタリ同廿二日朝八時諸隊ト共ニ同所ヲ出発十八「ウヨルスト」ヲ進ミ「ドラカ子シト」村ニ着シ諸隊モ爰ニ留マリ本営ノ數ハ百姓家ヲ借テ爰ニ泊スル全廿三日朝八時全所ヲ発シ第十一時ニ十八「ウヨルスト」ヲ進ミ「クルンザル」村ヘ着ス当所ハ人家少ナリ漸ク一軒ノ家ヲ借リテ之ヲ本営トシ「ゼ子ラー」等爰ニ泊シ餘ハ悉ク天幕ヲ張リ下拙等モ布屋内ニ泊セリ全廿四日朝八時ヨリ進軍ニテ正午「モンヅラ」村ヘ着シ本営始メ天幕内ニ一泊ス今日行程ハ二十「ウヨルスト」同廿五日午後三時同所ヲ出立夕六時「シヤガルテヤ」村ヘ着ス「ラテナ」ヨリ此所迄岡山ヲ見ズ只平面ノ野原畑ニシテ海中ニ四方ヲ眺ムルガ如ク其何レニ限アルヲ知ラズ而黒地肥地植物青々ト茂リテ殊ニ麥ト葡萄ヌク未タ嘗来ラザルヲ以テ能ク實ラズト雖モ豊熟ノ望アルヲ見ル此邊ノ人民ハ尋常ノ家ニ住ム者ナク地ヲ堀リ入口ヲ拵ヘ上ハ木ヲ横ニ渡シテ之ヲ蓋ヒ又土ヲ冠ブセテ其上ハ塵埃埋堆ク或ハ草生茂リアルヲ以テ全ク土窟ニシテ則チ「バラン」ノ如シ故ニ本営等ヲ置クベキ家甚タ稀ナリ当「シヤガルテヤ」村ヲ「ダニユーブ」ヲ隔ル僅ニ九「ウヨルスト」計ニテ河岸ノ土ノ砲臺ハ眼鏡ヲ以テ目前ニ見ル「ヲ得尤今午後ヨリ砲声聞ヘ当地ヘ着シテ殊ニ甚タシク聞ユ今夜十時頃ヨリ降雨ニテ夜明ケニ止ム同廿六日諸軍ハ本営ト共ニ「シロ」村ニ向テ発ス予等其餘外國士官等ハ「ダニユーブ」河岸魯ノ砲臺又ハ土ノ陣所等ヲ見物ニ廻リ而シテ後「スロカ」ヘ来テ可然旨大将ノ下知ニテ下拙等両人「デ子ヲーデン」ノ「カピタン」一人独逸ノ「ヨール」一人「カピタン」一

ルヲ以テ能ク實ラズト雖モ豊熟ノ望アルヲ見ル此邊ノ人民ハ尋常ノ家ニ住ム者ナク地ヲ堀リ入口ヲ拵ヘ上ハ木ヲ横ニ渡シテ之ヲ蓋ヒ又土ヲ冠ブセテ其上ハ塵埃埋堆ク或ハ草生茂リアルヲ以テ全ク土窟ニシテ則チ「バラン」ノ如シ故ニ本営等ヲ置クベキ家甚タ稀ナリ当「シヤガルテヤ」村ヲ「ダニユーブ」ヲ隔ル僅ニ九「ウヨルスト」計ニテ河岸ノ土ノ砲臺ハ眼鏡ヲ以テ目前ニ見ル「ヲ得尤今午後ヨリ砲声聞ヘ当地ヘ着シテ殊ニ甚タシク聞ユ今夜十時頃ヨリ降雨ニテ夜明ケニ止ム同廿六日諸軍ハ本営ト共ニ「シロ」村ニ向テ発ス予等其餘外國士官等ハ「ダニユーブ」河岸魯ノ砲臺又ハ土ノ陣所等ヲ見物ニ廻リ而シテ後「スロカ」ヘ来テ可然旨大将ノ下知ニテ下拙等両人「デ子ヲーデン」ノ「カピタン」一人独逸ノ「ヨール」一人「カピタン」一

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

人魯士官二人ト共ニ「ツルフムグレリ」ヘ向ヒ十時ニ同所ヘ
着シ二「ウヨルスト」ヲ進ミ右側魯ノ砲臺ヲ見物ニ至リシ
ニ此場所ハ河幅廣カラズ土ノ砲台トハ「ウヨルスト」位ア
リテ飛丸最中ノ間弔等ノ至ルヤ敵ノ砲丸頭上ヲ飛ブ三ツ
下拙等ノ前後ハ落テ来ル者幾ツモアリシト雖モ實彈而已
ニテ一モ破裂セシ者ナシ依テ併追々盛ニ打出シ甚タ危キヲ
以テ同所ヲ退キ他ノ砲台ヲ周覧セリ左側ノ方ハ河幅廣キ
ヲ以テ砲丸自由ニ達セズ尤「ニコボル」ニ在ル砲ハ良ナラズ
ト見ヘ遠町ニ達セザルヲ以テ砲発セズ魯ノ砲台ヨリ発セ
シ丸ハ大抵「ニコボル」ノ砲臺ニ屆キ尚弔等砲台内ニ在ル中発
セシ弾丸モ二三敵ノ要所ニ打付破裂セシ者アリタリ魯ノ
砲ハ更ク六「インチ」ノ施條本込「モルチール」ニテ其丸ノ遠
ク走ル驚ク二堪ヘタリ左側ノ砲臺ヨリ「ニコボル」寨ニ向テ
発スル者ハ右ノ「モルチール」砲ニ六斤ノ火藥ヲ裝メ四十三
度或ハ四十度ヲ掛ケテ放テバ能ク適当ノ場所ニ達セリ下
拙等ハ諸砲臺ヲ見物シタル五時過ツルノ町内ニ来リ一ノ「レ
ストラン」ニ於テ食事シ又全所ヲ出立夜九時ヲ「スカ」村ニ着
シ本営ト共ニ布屋ニ止マル当所ハ「ツルノ」ヨリ河岸ニ添ヘ
「ジムニツ」ノ方ヘ二十「ウヨルスト」餘少キ山林アル村ニシテ
「ダニユーブ」河岸ヨリ三四「ウヨルスト」ヲ隔ツト雖モ土ノ砲
台布陣ノ場「ニコボル」府ハ目前ニ見ユル此邊敵ノ地方ハ甚タ
要害ニシテ河岸ハ悉ク高岡遠ク續キ砲臺ハ岡上ヨリ河岸
ニ掛ケテ二重三重築キシ場所アリ「ニコボル」岡ノ左端ハ「ヲ
スマ」河流レテ「ダニユーブ」ヘ入リ以前ハ隣ノ岡トノ通行ハ
此河ノ為ニ甚タ不便ナリシ由ナレ共此頃土勢ハ同河ニ橋
ヲ架ケ隣岡ト通路ヲ自由ニセシ由今廿七日早朝ヨリ五ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

砲発スル丁甚タシ昨夜ハ十ノ「モニトー」ル三四艘来リ魯ノ
砲墓ト砲戦セシ由而シテ今朝五時頃ヨリ「ニコポル」ノ市中
焼ケ立終日盛ニ燃ヘタリ午後四時半ニ「ジムニツァ」陣セシ第
八番軍ヨリ本営ヘ左ノ報知来レリ昨夜中我ガ八番軍不残
「ダニユーブ」河ヲ渡リ「シストウヲ」ニ達セリ味方ハ手負三百
人死者三十人ニシテ砲隊一「パッテレ」ハ砲器隊長共ニ惣テ
沈没セリト此報来ルヤ我本営ノ喜甚シク人々相見ル毎ニ
之ヲ祝セサル者ナシ仝廿八日満陣今日「シストウ」ヨリ何ノ
報知モナシ彼渡リシ場所ハ当所ヨリ三十「ウヨルスト」ニ過
キズ三四時間ニ達スベキ所ナルヲ以テ下拙等右ノ場所見
物ノ為メ差越サントヲ欲スレ共彼ノ場所ハ第八番軍ノ支
配地ニテ第九番軍ノ管轄ニアラザルヲ以テ自由ニ行クヲ
許サレズ午前十一時頃ヨリ下拙等砲墓廻覧トシテ諸士官

ト河岸ヲ過キ後「ツルノ」市中ニ至リ食事等ヲ為シタ方帰陣
スル「ツルノ」ハ一府ニシテ人家一萬軒モアランカト見ヘ「ホテ
ル」等モ数多アリテ頗ル立派ナル町家花園等モ諸所ニアリ
テ愛ニハ諸所ヨリ善者等モ集マリ来テ書過ヨリ踊歌等始
マリ甚タ賑カナリ「ツルノ」ハ「ニコポル」ト対シタル場所ニテ
其距離左迄近ク敵味方ノ砲声耳元ニ響クト雖モ敵ノ弾丸「ツ
ルノ」迫ハ達セザルヲ以テ人民少シモ恐レズ兵数多集リ
来テ諸品能ク賣ル、ヲ以テ大ニ之ヲ幸トスルノ様子而シ
テ砲声ノ中ト雖モ高帽子ヲ冠リ奢麗面シテ園中等ニ日ヲ
暮ス者モ多ク見ヘ實ニ「ツルノ」ハ戦場トハ思モ寄ラザル位
ナレモ砲丸ノ飛来ル音餘リ近ク聞エル節ハ園内ニテ歌ヒ
又ハ踊ル者モ半ニ止テ空ヲ仰キ見ル位實ニ砲声ト音楽ト
同時ニ交ヘ聞ク外ハ他ノ場所ニテ得ザル丁タルベシ此町内

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

二魯人ノ宿セル者ハ隊外ノ士官等僅而已ニメ其餘ハ悉ク
諸所野原ニ布陣シ一モ町肉ニ宿スル者ナシ「ニコポル」ハ昨
日ヨリ焼ケ續キ取消サントスルノ様子見ハス全廿九日「ニ
コポル」ハ火未タ消ハズ今日ハ魯ノ砲臺ヨリ終日砲撃セリ
ト雖モ土ノ方ヨリハ甚タ稀ニ對フ村民ノ咄ニハ魯軍「シス
トウオ」ニ渡リシヲ以テ士兵ノ「ニコポル」ニ在ル者其半ヲ残シ
餘ハ彼ノ魯兵ヲ防キ我ガ後ヲ固クセン為メ「ニコポル」ヲ去
メリト拙者当軍ノ有様ニ注意シ其擧動ヲ見ルニ一昨日魯
軍「シストウオ」ヘ渡リシトノ報ヲ得シ後頻リニ諸事ヲ急ク
様子昨日モ橋梁ケ用ノ材木七八百本車牛ニ牽セテ河岸ヘ運
出セリ不日当軍モ必ラズ河渡ヲ始ムベシ乍併或ル士官ノ
咄ニハ已ニ「シストウオ」ハ三万餘ノ兵渡リ得タルヲ以テ両日
中ニハ「ニコポル」ヘ廻リ来ルベシ然ル時ハ我ガ九番軍格別

ノ戦ニ及ハズシテ渡ル丁ヲ得ベシ今急ヒテハ番軍ノ「ニコ
ポル」ニ廻リ来ルヲ待タズメ河ヲ渡テシストウオヘ廻リ来ル
ナリトノ事ナリト此咄ヲ以テ考フレハ全ク其擧動ナキニ
シモアラズ乍併本営ノ見込ハ素ヨリ誰モ知ル能ハザルヲ
以テ下拙等勿論其一斑ヲモ探シ付ル丁能ハス「シストウオ」ヨ
リノ報知其後一モ聞ク丁ヲ得ズ察スルニ報知ハ毎日アル
筈ナレモ魯ノ能キ計ニモアラザルヲ以テ之ヲ廣メザル
ベシ「ニコポル」市中ハ猶今日迄焼ケ續テ消ヘズ全廿日今日
何タル新事ナシ当所ハ毎日晴天ニテ暑氣甚タシト雖モ原
野ノ事故涼風アルヲ以テ物陰ニハ甚タ涼シ今日ハ八
時頃ヨリ雷鳴驟雨十時過ニハ快晴トナリテ大ニ暑ヲ減セ
リ夜中ノ寒サハ晝ト格別ノ違ナリ外國士官等ハ其国ノ
兵卒一人ツヽヲ召連レ馬車並乗馬モ其国ヨリ引来リ布屋、

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

寝床倚子机迄モ悉ク盈ム様ニ拵ヘタル者ヲ携ヘ来リ其「サ
モ〻〻」類ノ物迄モ萬物相揃アルヲ以テ少シモ不自由ノ様
子見ヘサレ𪜈前ニ記セシ如ク下拙等ハ急々ノ揃方ニテ多
金ヲ費セシト雖𪜈日用ノ物ハ何モ揃ヘ出サズ一二ノ鍋位
アル而已ニテ茶煙草サヘモ餘計ニ買入レ置ク能ハズ本営
ト全所ニ幾ツモ布屋アリテ下拙等ノ布屋モ其中ニ借リ外
ヨリ見テハ独逸其外ノ士官等ノ布屋モ下拙等ノ住ヒモ頁
ケズ劣ラズ見ユレ𪜈中ニ入テ見レバ下拙ハ山澤ト両人土
地ニ「ケット」ヲ敷シ而已ニテ起臥シ殊ニ下拙ハ御存ノ如ク不
頓着者ニテ其不潔ハ心ニ掛ケズ山澤ハ其不頓着ナル下拙
ヨリ見テハ独逸其外ノ士官等ノ布屋モ下拙等ノ住ヒモ頁
ニ十倍シタマサカ人足モ両人アリ兵卒モ一人下拙等ニ属
スト雖𪜈一向掃除セシムルヿモナク不潔極リナシ御察可
被下候食事ハ間ニハ本営「ゼ」子テ此等ト同机ニ招カレ〻

ヿアリト雖𪜈何分当所ハ元分ノ食物ナキ場所故毎日招カ
ルヽ儀ニ至ラズ下拙等ハ毎日人足ヲ諸所ヘ遣シ鶏等ヲ探
サセ毎日間ニ合ハセリ左候時トシテハ何モ探シ得サルヿ
アルニ由リ其𪜈ハ兵糧方ヘ願出ツレバ何カ見立下拙等ノ
為ニ與ヘラルヽヿアリ是等ノ外相認メ度儀ハ山ノ如シト
雖𪜈心ニ任セズ只今日迄ノ覚書ヲ報セン為メ筆ノ走ルニ
任カセタルヲ以テ不断落字等モ多カルベク且ツ再見モ不
致ニ付御察読被下兼紙御用捨偏ニ奉願候敬白

明治十年六月三十日夕四時認　山本清堅

「スヱカ」村ヨリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

然者下拙等ハ玄ル五日本営ト共ニ「スエカ」ヲ打立テ「ジムニツア」ヘ着シ仝所ヘ二日滞在ニテ仝七日朝「ダニユーブ」河ヲ越ヘ河岸ヲ止リ「シストヴォ」ヲ経テ「モナクト」ト名クル小村ヘ当分滞在罷在候九番軍ノ内モ過半ハ「ニコポル」近キ村迄進ミ彼処ヘ滞在ニテ未タ「ニコポル」ニハ押寄ザレ共「ニコポル」ノ土塁ハ毎日々々引退ク由今ハ僅カ一萬人計リ残リタル由或ル説ニハ我等第九番軍ハ戦ハズシテ「ニコポル」ニ入ル事ヲ得ハシトノ事ニ候「ダニユーブ」ノ橋ハ始メ第八番軍渡リシヨリ拾七時間ニシテ成就シ拾三番軍モ已ニ渡リ弔茅ノ属セル第九番軍モ惣テ渡リ終リタル故已ニ拾萬計リハ「ボルガリヤ」内ニ入リシヨリ以テ土塁ハ川ノ防キハ已ニ手ヲ切タル様子尤モ橋ヲ架ケタル後一度モ「ニコポル」ノ来リシ事ナク又土兵ノ攻来リシ事ナク魯塁ノ進ムニ従テ土兵ハ退クノ模様ナリ實ニ始ノ推察トハ大ニ違ヒ如何ナル譯ニテ斯ク容易ク魯兵ヲシテ川ヲ越サシメタルヤ解スルヿサハモ出来ズ橋ノ上下ヘ魯ノ軍艦アリ且ツ嚴ナル砲台ヲ築キテ守リアルト雖モ土ノ軍艦一度モ見ヘザルヲ以テ河渡ハ大ニ安心或ル説ニハ土ノ軍艦ハ已ニ一艘モ用ニ立ツモノナシトノ事是レ或ハ實ナランカトモ察シ候「コザク」兵ハ例ノ通リ諸村々等ヲ巡邏シ敵ノ番兵ヲ追散シ馬或ハ兵粮ヲ奪ヒ来ル「多ク一昨日モ昨日モ土ノ士官並兵卒ヲ拾人計リ生捕リ来リ候捕ハレ人ハ惣テ「ジムニツア」へ被送丁寧ニ養ヒアル由今四五日モ過グレバ我等九番軍本営モ「ニコポル」ニ到ルベク今日本営ニテ或ル士官ノ咄ニ據レバ当村ヘ此軍ノ滞在ハ第五番軍ノ河ヲ渡ルヲ待ツ為ナリト此邊「ボルガリヤ」土民等ハ甚タ丁寧諸菓物ヲ携ベ来テ呉ル者

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

多ク作併間ニハ逃去リテ歸リ来ラザル者モアリ「シストラオ」ノ町内ハ住民ハ大抵其侭残リ居商賣ヲ為故煙草類ノ物ハ大ニ賣レ甚タ利ヲ得ル様子併シ日ルニテトルコ顯貴ノ者ハ悉ク逃去リテ歸ラズ未タ魯軍ノ何ヲ目差シテ進入スルヤハ探索スル事能ハズト雖モ一体ノ有様或ハ諸説ヲ以テ察スレバ半分則チ下拙等ノ方ハ「ソフヤ」ニ向ヒ他ハ「シユムラ」ニ進入可相成ト存候此邊日中暑氣甚タシト雖モ夜ニ入レバ冬ノ如シ尤下拙等魯国ヲ出デシヨリ毎日晴天ニテ已ニ三十日ヲ過キ大ニ乾キテ雨ノ降ルヲ望ミ居タルニ一昨日ハ大雷風雨大ニ濕ヒタリ此雨ニテ取持甚タ違ヒ昨今日ハ袷ノ着物ハ寒フシテ用ユル事能ハズ

ニコポルニハ当所ヨリ四時間行程ノ所ナル故不日ニハ彼所ヘ至リ可申歟併シ土塁長ク引退カザルニ於テハ詰リ攻取テザルヲ得ザルヲ以テ少シハ隙取可申多分ハ彼等自ラ引去可申トノ事ニ御坐候敬白

七月十一日

山本清堅

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

文戦日報

七月十四日

維納十二日「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ「ニユフレイブレス」ニ
記シテ云ク土兵ハ魯兵ト決戦スル為メ心スキユク「トシユ
ムラ」ノ際ニ在ハ要害ニ拠リ屯集セリ「カサク」ノ分隊兵ハヲ
スマンバザル」並ニ「ドラノク」ノ辺迫進入セリ
魯帝ハ昨日ヨリ「ラ」ニ出張セラレリ「ロママニヤ」国
ノ軍艦ブルルゼルー」並ニ「ローマニヤ」号ハ「ブライロス」ヨリ
「カラシ」ノ東ニアリ「ごりストりヤ」ニ着セリ今暫
ハ「ダニユーブ」ヲ越スノ用意中ナリ「ラシチ」ニ在ル「ローマニ
ヤ」ノ砲臺ト「ロムバラン」カ(ママ)ノ東ニアリ南ニ在ル土ノ砲臺ト劇
シク砲撃セリ

「ドイツワセイチェング」新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記シテ

云ノ過日魯国ハロームニヤ」国ノ鉄道ヲ向ケ汽車百個ヲ送レリ仝新聞ニ云ノ或ル牲十ル説ニ魯政府ハフランノホル
ト」ノ「ベールル、ソンドヘイメル」會社ト約條ヲ為シ「ルスチク」ヲ
囲ムノ目的ニテ秣ハ万「プード」牛四千頓荷車八百ヲ買込ム
ベキニ決セリ

君士坦丁府十二日ボルガリヤ」ヨリハ別ニ公報ナシ然トモ
「ドブルヂヤ」ニ在ル魯兵ノ位置ハ前日ト仝様ナリ「バヤゼット」
竜城ニル魯兵ハ降ルヲ拒ミシヨリ土兵ハ頻リニ城郭ニ
向ヲ砲撃中ナリ「イスマイルバシヤ」ト「ヘイクバシヤ」ノ兵ハ
国界ノ方ニ於テ連絡ヲ通セリ

竜動十二日英ノ軍艦「プラミンゴ」並ニ「コンドル」号ハ水雷畐
ヲ備ヘ英国ノ「キンテレスト」ヲ得護スハ為メ「ダニューブ」河
ニ向ケ出帆スベキノ命ヲ受ケリ

忽ニシテ河ハ現ニ魯ノ水雷ニテ梗塞シ固ヨリ他国船通過スルヲ得ズ然ニ斯ル浮説ヲ信ノ採録スルハ正サニ魯国新聞ノカヲウヒヤ

自ラ女愚ヲ表スルニ足レリ

「バルチック」ハ里海ニアル土領ナリト云フ

君士坦丁府十三日「ハワスアゲンシー」ノ報ニ云ク「ザイム」ノ近
辺ニ在ル四万ノ魯兵ハ「カルス」城兵並ニ「クタルバシヤ」ノ
兵ト不日大戦ニ及フベシ」ト「コンスタンチノープル」新聞ヘノ報ニ云ク「プ」リ
隊ハ敵船ヲ取押ヘ「バルチック」ヘ入港セリ
維納十三日「プカレスト」ヨリ「プレスチエルカスチー」ハ「ボルガリヤ」国卿兵ノ編制ヲ托セラレ
リ「ボルガリヤ」人ノ武器ヲ携フルニ適セシ者ハ悉ク軍役ニ
編入セラルベシ

竜動十一日生「ークエゲンブルグ」ハ敖日土京ニ滞在ノ後仝
所ヲ退キ「ベルカ」洪ヘ赴ケリ仝十三日土政府ハ墺政府ヘ向
ヒ「キモック」沢ヲ越ヘ魯兵ヘ送致スル兵粮ヲ妨ケンガ為メ「セ
ルフセヤ」ノ国界ヘ土兵ヲ置ンヲ掛合シガ「コーンストアンド
ラシー」ハ之ニ答フルニ換国「ホンガリヤ」政府ハ魯兵並ニ「ロ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ノマニヤ」ノ兵ヲ令斬ヘ入ルハヲ禁セシ上ハ土国ヘモ許ルスヿヲ得ズト

紙然タル浮説ニテ信スベキニ足ラズ

十五日

君士坦丁十三日「パロスアゲント」ノ報ニ「モンテネグロ」トハ多分和睦ニ決スベシ魯兵ハチルノウラヲ越シ進入スルニ由リ土兵ハ「バルカン」山ノ要所ニ拠リ屯集セリ

此説亦未タ信ジ易カラズ

「ラグザ」十三日惹ナル根源ヨリノ報ニ「セルビヤ」モンテネグロ」ノ両国ハ今盟ヒ土国ト戦ハンコトノ円約ヲ定結ベリ「モンテネグロ」勢ハ「セルビヤ」勢ト連合スル為メ近日出発スベシ

此亦信スベカラズ

「ラグザ」十四日昨日土国ノ理事官ハ墺国汽船會社ロイド」ト定約シ歩兵四十八大隊並ニ兵粮等ヲ「ダニューブ」河ヘ運送スベキニ決セリ

十六日

「カフカズ」ヨリノ電報ニ「ゼチラール」アルカゾフ」ハ去ル十三日兵ヲ二行ニ分チ「ポクロ」並ニ「ウクワルチ」ヨリ「ガリグ」ノ右岸ヘ押寄セ敵兵ヲモ「コヨリ」ノ後ヘ逐退シ「グム」ノ高地ヲ奪取シ中将「テルグカリフ」斯ク零落シ且ツ土兵ノ殺セシ死骸ノ臭気甚ダ堪ヘ難ク今暫ニ我兵ノ屯集スルハ真ニ難渋トナシ「バヤゼット」ヘ篭城セシ兵数ハ上等士官四人士官廿六人卒千五百八十七人ニシテ篭城ノ際死傷士官二人卒百十四人手負士官七人卒三百五十九人ナリ其他活キ残リノ兵士ハ全ク兵粮ニ乏シク終ニハ死馬ノ肉ヲ喰ヲ生命ヲ繋ナキ大ニ気力ヲ脱セシニヨリ今後永ク療養ヲ加ヘンヿヲ要スベシ「カルス」ニ於テハ戦ナシ

「セチニエ」十五日「スレイマンパシヤ」ハ七千ノ兵ヲボドゴリ

「イヤルド」ハ駐土英大使ノ名ナリ

ヲ」ヘ残シ置キ他ノ二万ヲ率キ「アトリヤノポル」ヘ赴ケリモンテネグロ」勢ハ近日進撃スベシ

「セチニエ」並ニ「メグシニ」在ル病院ニハ即今三百五十ノ手負病人療養中ナリ

君士坦丁府十五「イヤルド」氏ハ頻リニ土政府ニ迫リ英国艦隊ヲ「ボスフォリユス」並ニ「ダルダネル」峡ヘ乗込シヲ請ヘリ併シ未タ其許可ヲ得ズト

「ザラ」十四日メクメドアリパシヤ」ハ兵ヲ率キ「モンテネグロ」ノ東国界ヨリ「セトニッア」ヘ赴ケリ「プリンスニキタ」ハ「ニク千」城ヲ囲ム目論見ニテ今哥ヘ多クノ大隊ヲ送レリ

維納十四日巴里府ヨリノ電報ニ「プリンスビスマルク」ノ目論見ニテハ魯兵「バルカン」山ヲ乗取リシ時ハ日国ハ双方ヘ休戦ヲ勧ムベシト

「カンキヨイ」ハ即チ「バルカン」ノ南ニアル地ナリ

ブカレスト」十四日「アブゾルケリム」ハ「ヒュムラ」ヘ大兵ヲ纏メ魯兵ト大戦セント用意セリ魯ノ本営ハ「レストウ」ヲ引拂ヘリ併シ何地ヘ移セシカ未タ詳ナラズ「ガザリ」ノ分隊ハ「ダブロウ」ヲ乗取リ魯兵ハ「ダニユーブ」ノ河口ニ船ヲ沈メ通船ヲ妨ント用意中ナリ

「チフリス」十三日「ミハイル」親王ハ援兵ノ着次第「カフカズ」ノ惣軍ヲ以テ土領ニ進撃スルノ目論見ナリ

「チルノボ」十五日「コライ」親王ヨリノ公報ニ我先鋒隊ノ「ルカン」山ヲ越ヘシ好消息ヲ陛下ヘ祝セントス十三日夕五時半ニ於テ一弾丸ヲ発セズシテ「バルカン」山ヲ越セリ昨日午後二時ゼネラールグルコハ敵ノ「ニザム」三百ニテ固メシ「カンキヨイ」ヘ押寄セリ敵ハ悉ク敗走シ東「コルナ」村ヲ指メ退ケリ我カ犯傷即死ガ廿ク」兵一人傷狙撃隊兵一人「プラス

工部省
部課 雑綴

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ワン」並ニ「カサック」三人也

仝十七日

「ツルンマグレ」十五日第九「コルプス」ノ司令官中将「バロン、クリテネル」ヨリ皇帝陛下ヘノ電報ニ云クニコポル」ハ落城シ陛下ノ所有トナリシ幸福ヲ祝セントス昨朝四時ヨリ日暮迄連戦シ今未明別ニ約談ナクシテ降レリ陛下ノ兵ハ毎戦驍勇ニ戦ヒ敵ノ妥害ヲ衆乱シリ生捕ハ八千人ニ近シ殆ト六千人ニ近シ

「チルノウ」十四日ニヨライ」親王ヨリノ電報ニ「昨十二日予ハ「チルノウ」ヘ着シ電線ヲ架セシメリ去ル十一日ウォズネセンスキー」隊ハ「ラダニヨリ「ゼルコヨライ」村ノ近辺ニ於テ運送車ヲ警衛セシ一千五百人ニ出會ヒ直チニ戦ヲ始ム敵ハ運送車ヲ棄テ悉ク逃走セリ我ガ兵数ノ少キニヨリ敵ヲ逐ヒクルヲ得ザリシガ此時「ゼネラールレヲノコ」ハ騎兵二大隊「カサック」半ソトニヤ」並ニ大砲二挺ヲ以テ應援ニ来リ終ニ敵ヲ逐ヒク運送車三百輛ヲ分捕シ生捕十人ヲ得タリ敵ハ死骸五十ヲ遺シテ去シリ我兵ノ損傷手負大佐一人卒五人行衛知レザル戦死士官一人卒八人傷士官一人卒十五人ナリ

維納十六日「アブゾルケリムバシヤ」ハ不日「ルスチュク」ニ於テ魯兵ト大戦スベシ

「ベルグラード」十六日「チモック」ニ在ル次第出陣スベキノ令ヲ得タリ「セルス」ヤ政府ハ外国ヘ穀物ヲ輸出スルヲ禁セシ趣ヲ各国理事官ヘ通知セリ

君士坦丁府十五日「イスマイルパシヤ」並ニ「ベイクバシヤ」ハ「ワンヲ襲ハンガ為メ魯ノ国境ヘ押込ント用意セリ魯兵

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

土国将師ノ呑呑ハ大抵自ラ攻ヲ捨ツル如シ

續テ「カルス」城北ニ大兵ヲ屯集中ナリ土政府ハ歩兵二十大隊ヲ「ゼルスヤ」ノ西境ヘ送ルベキノ風説アリ当府ニ在ロセシ鎮堂兵ハ「ボルガリヤ」ヘ送ラレタリ「スレイマンパシヤ」モ一週間内ニハ全所ヘ出張スベシ

「イベク」十五日「イスマイルパシヤ」ヨリ電報ニ魯兵ハ大勢ヲ以テ「バヤゼット」ニ来リ土兵ヲ襲ヘリ土兵ハ力ヲ竭シ防戦セシモ兵数甚タ乏ラザルニヨリ引退キ援兵ヲ得テ再ビ戦ヲ始メシガ魯兵ハ六百人ヲ失ヒ「バヤゼット」ヨリ三時間ノ距離ニ在ル「カラブラク」ヘ逃ケ去レリ

「アレキサンドロボル」十五日「ゼネラールテルグカソフ」ノ兵ハ死骸ノ臭穢甚タシクメ「バヤゼット」ニ滞留出来難キニヨリ「イグダル」ヘ退ケリ

今十八日

チルノウ十六日「ゼネラールグルコ」ハ去ル十二日諸種ノ分隊兵ヲ率キチルノウヲ出陣シ十三日「バルカン」山ヲ踰ヘ十四日「カンキヨイ」村ノ山峡ノ出口ニ在ル土兵ヲ逐散シガシリク」ノ街道ヘ出デ「シプカ」峡ニ進込メリ「カザク」隊ニ「ソフニヤ」ハ既ニ「ヨリ九ナ」ニ在リ「ウヨルストト」ニ達シ「テルソザ」村ノ近辺ニ於テハニガグラ」並ニ「スリウ」ヘノ街道ニ在ル電線ヲ毀テリ十五日我カ「カザク」隊ハ「バシブゾーク」並ニチルケス人等ト戦ヲ始ムルヤ「ゼネラールグルコ」ヨリ應援ノ為メカザシ」ノダラグシ」隊並ニ大砲四門ヲ送レリ依テ敵ハ能ク防戦セシガ右援兵ノ来ルヲ見狼狽シテ逃ケ去レリ我兵ハ敵ノ隊旗一ツ並ニ小銃若干ヲ分捕レリ地方ノ土耳格人ハ悉ク「アドリヤノッポル」ヲ指メ逃去レリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

君士坦丁府十六日当府ノ鎮台兵ハ不残「アドリヤノポル」ヘ
送ラレ魯兵ハ砲隊ナクメ「ヲニザクラ」ヲ乗取レリ魯ノ歩
兵十八大隊ハ「ボルガリヤ」人民ノ案内ニテ「シプカ」ノ山峡ヨ
リ「バルカン」山ヲ越セリケルム」新聞ニ云ク魯ノ先鋒ハ既ニ「ヲスマン」
記ニラ云ク「ベラ」並ニ「デダン」ノ除ニ於テヤンタラ」河ヲ渡レリ又ガサノ
隊ハ「ラスグラト」ヘ廻レリ仝新聞ニ云ク「ダニユーブ」ニ在ル
土兵ヲ東西二手ニ分チ一手ハ「アブヅルケリムバシヤ」之ヲ
指揮シ一手ハ「スレイマンパシヤ」ノ配下ニ置クベシト
維納十六日「ドイッセイチュング」ニ「ユムラ」ヨリノ電報ヲ
記メ云ク明日魯帝ノ本営ヲ「ストホ」ヨリ「ラレウィ」ヘ移ス
ベシ「シストホ」ヨリ二「キロメードル」ノ処即チ「ツルナマガ
レリ」ノ向岸ニ舟二ノ橋ヲ架シ了レリガブロホ」近辺ニ

ダチ」ニ於テ大合戦アリ魯兵一万五千人ハ「ガブロホ」ヨリ「ガ
サンリク」ノ途中ヲ防禦スル敵兵二万五千ノ先鋒六千人ニ
命シ戦ヒ大ニ勝利ヲ得タリ、敵日未ダ「スタラザゴラ」ヘ
電信注渡ヲ廃セリ「ダダブラト」新聞ニ「ヲスサ」ヨリ電報ヲ載
セテ云ク土ノ甲鉄艦四艘「セバストポル」ノ沖ヘ砲泊セリ
「ブカレスト」十五日魯ノ先鋒隊ハ去ル十三日「ラストワ」ヘ入レリ
ノ東西ニ着シ「スタラザゴラ」ト「ロルナ」トノ鉄道ヲ断チ切
レリ「スタラザゴラ」ニ於テ不日大戦アルベシ

仝十九日

「ブカレスト」十八日本日ボルカリヤ」ニ於テ魯土ノ大兵突合
セ大合戦最中ナリトノ説アリ「スタラザゴラ」城ハ八方ヨリ魯兵
ニ取巻カレタリ

君士坦丁府十八日土帝ハ大ニ気衰ヘシ「マクムドダマッドパ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

魯兵ヲ逐迫セリトノ説信ズベカラズ

ニヤ」ノ威勢モ漸ク衰微セリ急ニアドリヤノポルヲ厳重ニ固ムルノ今アリ今斯点検ノ為メ「ウフバニヤ」並ニ大佐「ベクケル」ヲ遣ハセリ土国外務卿ヨリ遣外公使等ヘ通知セシ電報ニ云ク「ハインブクナツ」ノ近辺ニ於テ魯兵数大隊「バルカン」山ヲ越セシモ今斯ニハ土兵僅ニ一大隊而已ニテ二時間劇戦ノ後餘多ナク引退ケリ、海軍卿「ウフバニヤ」ハ即今「バルカン」山ニ在リ魯兵ノ意外ニ今斯ヲ越セシヲ聞キ直チニ其場ヘ赴キ敵ヲ襲フテ逐迫セリ又云ク魯兵「ボルガリヤ」ヘ進入スルニ付テハ少モ公然タル報知ナク又「ウフバニヤ」ガ「バルカン」山ノ魯兵ニ打勝シ詳ナル報知モナシ又イマニバニヤ」ノ分隊ハ「ラキヤ」ヘ着セリ土兵ハ「ドブルヂヤ」ヘ進ム魯兵ヲ能ク防戦スルノ風説アリ

竜動十八日君士坦丁府ヨリハワスアゲント」ヘノ報ニ云ク

「イヤルド」氏ハ英国艦隊ヲ「ダルダネル」ヘ乗込事件ニ於テハ公然土政府ヘ掛合セシニアラス只親切ニ話シカケシ而已ナリ

「ヲヂサ」十八日汽船「ヒスタ」「コンスタンチン」並ニ「ウラヂメル」号ハ去ル十五日巡邏ノ為メセバスト「ポル」ヲ発シ「アナトリヤ」並ニ「キリー」ノ海峡ヲ駛走セリ然レ共一艘ノ敵船ヲ見スメ本日「ヲヂサ」ヘ帰港セリ「リワヂヤ」船号モ右ノ汽船ト今時ニ「セバストポル」ヲ出帆シ「ヲチヤコ」ヘ廻レリ

維納十七日「ポリチスコルレスポンデンツ」新聞ニ云ク「コンスタンチノープル」府ノ落城セシ件魯兵ハ大砲四十門甲鉄艦二艘ヲ分捕レリ此時捕セラレシ両「パシヤ」ハ「アクメットパシヤ」並ニ「ウサンパシヤ」ノ二名ナリ「コーマニヤ」勢ハ河ヲ越テ進撃スルヲ止メ只管ダニューブ河ヲ防戦スルニ決セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

今二十日

「ブカレスト」十九日魯兵「ブルガリヤ」ノ進ミシニヨリ「ブルガリヤ」人民ニ就テ歩兵十二大隊ヲ編制スルニ決セリ、兼テ期シタル「ルスチュク」ニ於テ一大戦ノ終ル迄ハ魯帝ハ「シストホ」ニ逗留セラルベシトノホヨリノ報ニ「アブヅルケリムパシヤ」ハ我カ左翼ヲ襲ハン為メ進撃ヲ始メリ「ローマニヤ」勢ハ「ダニユーブ」ヲ越サバルノ説アレ氏当地ニ於テ権威アル「ロイテル」ニヤ」人ハ是非「ダニユーブ」ヲ越サシメント周旋セリ

君士坦丁府十八日「サフヲットパシヤ」(舊外務卿)ハ工部卿ニ轉任シアリセバシヤ」ハ外務卿ニ任ゼラレタリ小亜細亜ヨリノ報ニ魯兵大勢ニテ再ビ「バヤゼット」ヘ来レリ魯兵ハ「カルス」ノ城北ニ集マリ「ムクタルパシヤ」ハ今城ノ東ニ陣セリ「アブヅルケリムパシヤ」ノ「チルノホ」ト「シストホ」ノ間ニ進ミシ説ハ不慥ナリ魯兵ハ「ギスステンデ」ヲ乗取レリシヤ」ハ「チヤチヨン」ノ司令官「サフヲットパシヤ」ト会伴シテ本日「アドリヤノポル」ヘ出立セリ

竜動十八日「ロイテルアゲント」ノ報ニ外務卿「サヘットパシヤ」ハ職ヲ辞セリ前キノ外務卿「アリセバシヤ」ハ外務卿ニ任セラルベシ

「キルダラ」十八日「ロリスメリコフ」ノ兵ハ悉ク「キルクダラ」ニ集マリ「ムクタルパシヤ」ノ兵ハ「ヤクダ」ニ集レリ

維納十九日当府ニ在ル土国大使ハ当外務省ヘ内ニ通知メ云ク魯兵ノ「バルカン山」ヲ越セシハ土国ノ策略ニメ魯兵ヲ鏖殺スルノ見込ニテアドリヤノポル」ニハ魚兵ニ抗スル為メ三十万ノ土兵アリト君坦丁府ヨリノ説ニ土帝ハ不日「アドリヤノポル」ヘ出張スベシ

此報信ヲ置キガタシ

仝二十一日

「ブカレスト」廿日魯ノ先鋒隊ハ「バルカン」山ヲ越シ諸方ノ街道ヨリ「コンケイ」ヲ占メ取シヨリ「プウサリヤ」並「エプール」ニ在ル土兵ハ悉ク「バルカン」ノ戦地ヘ出張セリ

君士坦丁府廿日魯兵ノ「ヤンボル」府ヲ襲ヒ「ドブルヅヂヤ」ヘ進ミシ兵ハ「チュルノウダ」ヲ占メ「ロルナ」ヘ進メリ「エチブト」「ケーニフ」ハ援兵トメ尚二万ノ兵ヲ送ルベシ、英政府ハ此兵ヲ送ルニ付必要ナル金子ヲケーニフヘ惜シ渡セリト、魯兵ハ「ザンリク」ヲ乗取リ「スリノボリ」ヘ進メリ「ガルス」並ニ「バヤゼット」ノ辺ニ於テ不日大戦アルベシ、「アブヴルケリムバシヤ」免職ハ公然布告アリタリ、宮門卿「サイドバシヤ」ハ臨時海軍卿ニ任ゼラレ工部卿「サロットバシヤ」ハ辞表ヲ出セリ、「アドリヤノポル」ノ鎮台「アリバシヤ」再ビ巴里府在留大使ニ任セラレタリ、仝十八日ノ報ニ帝備兵二万八自投兵若干本日「アドリヤノポル」ヘ送ラレタリ、「アドリヤノポル」ノ人民ハ悉ク君坦丁府ニ逃ケ来リシニヨリ政府ハ之ヲ府内ノ諸学校ニ配入セシメリ

「ブカレスト」廿日君士坦丁府ヨリノ報ニ土帝「アヅヴルハミッド」ハ先帝「アブヴルアヒス」ノ子「ユスフイゼヂ」ニ帝位ヲ譲リタキト望アリト

「ラグザ」廿日「モンテネグロ」勢ハ「ニクシチヘ」出陣スベキ命ヲ受ケリ

「ウルンマグレリ」廿日「アスタラカン」並ニ「カザニ」ノ「ダラグン隊ハ「ブカ」ニ在リテ厳シク「バルカン」山ノ街道ヲ固メ又魯兵ヤ「ンホリ」並ニ「ヒユムラ」トノ通路ヲ断チ切レリ「ラズグラ」ト」ノ辺ニ於テ不日大戦アルベシ

維納十九日「プレス」新聞ニ「ブカレスト」ヨリ電報ヲ記メ云リ

「チュルノウォダ」ノ衆取リシ魯兵ハ「ゼネラルチニメルマン」ノ指揮スル第十四「コルプス」ノ兵ナリ仝所ノ土耳格人民ハ自ラノ家屋ヘ放火メ逃シ去シリ又云ク君士坦丁府ヨリノ報ニ土ノ元帥「アブヅルケリムパシヤ」ハ免職セラレ「スレイマンパシヤ」其代任セラルベシ仝氏ノ本営ヘ着スル迄ハ「ダニユーブ」兵ノ臨時総督ハ「ヲスマンパシヤ」ニ任セラルベシ

「キユクダラ」十九日作十八日「スボタン」ニ於テ魯ノ先鋒ヲ護スル「ウラヂカフカス」ノ騎兵ハ敵ノ大兵ニ取巻カレカヲ尽メ防戦スルノ除先鋒ノ應援ヲ得テ土兵ヲ逐作ケリ此時敵ハ百余人ノ死骸ヲ遺セリ或説ニ「グルド」人ノ長「ムッサバシヤ」クンヅホフ」ハ戦死セリトノ風聞アリ魯兵ハ此時戦死十人手負廿一人ナリ土兵ハ戦場ニ倒レシ魯兵ニ會スル毎ニ其衣服ヲ剥取テ逃去セリ

「ダシケント」十八日「カスカル」ノ王「ヤクブベク」逝去セシニ付太子「ベクリベク」位ニ即キシ上青ヲ大将「カウフマン」ヘ通知セリ

仝廿二日

魯ノ公報ニ去ル十七日「ゼネラールグルコ」並ニ「プリンスミルスキー」ノ分隊兵ハ「バルカン」山ヲ越シ劇戦ノ後「ガザンリク」並ニ「セベスヲ」ノ両府ヲ乗取リ土兵ハ敗北シ大砲八門隊旗三流ヲ棄テ去シリ

「ケルノウラ」廿一日「アセタントセレプツフ」ハ去ル十七日「カザンリク」隊五「リツニヤ」並ニ大砲二門ヲ率ヒテ「セルウキ」ノ辺ニ於テ千五百人ノ「バシブヅーク」並ニ「千ルチス」等ニ出會我カ「ガザンリク」ノ槍隊ハ劇戦ノ後「ロフチヤ」府ヲ占メ取リ此役敵ハ

ガウフマンハ即チ魯領中亜細亜ノ総督ニテ「タシケント」ニ在リ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

五十人余ヲ失ヘリ我兵即死一人手負二人而已

「アレキセイ」親王ヨリ「コンスタンチン」親王ヘ去廿日付ノ電報ニ云ク「ニコボル」ノ落城セシ件甲鉄艦（カゼマート）二艘我カ手ニ入リ此船ハ我カ砲撃ノ為メニ随分損セシ所アリ且ツ桟管中五個ノ不足品アリ兵糧平線下ニハ損所ナキヲ以テ速ニ修復ヲ加ヘ用立タシムルノ見込ナリ

「ビストホ」廿日魯帝ノ本営ハ未タ当府ニ在リ「ビスチユク」ノ落着迄ハ転移セザルベシ「ルスチュク」ヲ攻ムル為メニ進ミシ二「コルブス」ハ其弟十一「コルブス」ヲ太子自ラ指揮シ第十二コルブス」ハ「ウラニミル」親王之ヲ指揮スベシ

維納廿一日「ブカレスト」ヨリノ報ニ「ウフバシヤ」ハ歩兵十五大隊ヲ将テ「バルカン」山ノ南ニ在ル魯兵ヲ襲ハントセシカ「ゼネラールグルコ」ハ「バリンスミルスキー」ト之ヲ撃破シ

リ此時土兵ハ大ニ敗走シ大砲八門運送車四輌ヲ我カ手ニ残セリ「ヲルハシヨワ」ヨリノ電報ニ云ク「ゆチン」ニ於テ現下「マチン」河ニ在ル土艦ハ魯ノ水雷ニ囲ヒ込マレ且ツ兵粮ノ貯少ナケレバ此月末迄ハヲ持ズメ自ラ舩ヲ破裂セシムルカ或ハ魯ニ渡スナラント大ニ痛心スル評判アリ「ドイツセリチェ」ノ新聞ニ「ビルニツア」十八日付ノ電報ヲ記メ云ク魯帝並ニ太子ノ本営ハ即今「パウロ」ニ在リ「ニコボル」ノ戦ニ於テ魯ハ大ニ兵士ヲ損セリ「ホントー」橋ノ通行ハ再々ト止マレリ君士坦丁府ヨリノ電報ニ「アクメット」エユーブバシヤ」ハ「アブツルテリムパシヤ」ニ代リ「ボルガリヤ」ノ土兵ヲ指揮シ「スレイマンパシヤ」ハ「ルメリヤ」ノ兵ヲ指揮シ「アドリヤノポル」ヲ防禦スベシ

竜動廿日「ボルツムース」ノ造舩局ハ運送舩「コロコゲル」「マラ

バル」共ニ「エフラチス」号ヲ未ダ廿五日迄ニ開帆スルノ文度ヲ為スベキ命ヲ受ケメリ然レ氏未タ何レヘ向ケ出帆スルヲ知ラズ「ダイレクト」ニテ「ガラ」新聞ニ云ク英政府ハ「ガリポリ」ノ半嶋ヲ占拠スルヿニ決シ印度ヨリ五万ノ兵ヲ欧羅巴ヘ廻ス為メニ悉ク用意整ヘリト

今二十三日

「チルノホ」十九日「ニコライ」親王ヨリノ公報ニ云ク只今忙ガラントスルニコライノ帯来リシ好新報ニ本日「ブカ」峡ハ我カ手ニ入レリ一昨日「ヲルハロフ」ノ聯隊ハ信シ難キ驍勇ヲ顕ハシ敵ノ十四「ダボル」ト戦ヘリ此時右ノ聯隊並ニ「サウ」ノ第三十聯隊ノ戦死ハ殆ンド百人ニ近ク手負モ亦百余人アリ内士官戦死二人手負五人ナリ今日「ゼネラールグル」「ハガザンリク」並ニ「ブカ」村ヲ乗取レリ本日「ヲルロフ」ノ聯隊ハ再ヒ進撃ヲ始メシガ土兵ノ小銃一発ヲモ放タズ更ニ抗抵セズメ逃去セリ午後四時土兵再ビ「ヲルロフ」聯隊ノ月ヲ遮キリシガ終ニ大砲八門其他ノ武器並ニ隊旗三旅ヲ捨テ東ヲ指メ逃去セリ即今「ブカ」峡ハ「ヲルロフ」ノ聯隊ト大砲二門ヲ以テ之ヲ固メリ

「ビユルゼホ」廿一日第四第十二第十三ノ三「コルプス」ハ「ルスチユク」ヲ囲メリ而シテ我カ隊ヲ「ダニューブ」ノ河上十五「ウヨルスト」河下七「ウヨルスト」ノ距離ニ配リ戦ヲ待ツ而モナリ「ルスチユク」城内ノ土兵ハ約五万ト見積レリ「ドブルザ」ニ渡リシ魯兵ハ殆ト五万人ナリ

維納廿二日「ダグブラット」「フレームデンブラット」共ニ「ブレス」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記ノ云ク土政府ハ英国ノ兵五万人ヲ君士坦丁府ヘ入ハ、ヲ許セリト「スレイマンパシ」

「ブカ」峡ハ「バルカン」山ヲ跨ユルノ峡道ニシテ最要所ナリ初メ魯兵ハ此峡ヨリ跨ユルヲ得サリシヲ以テ「カリアヌリ」越ト云フ螺旋ノ通行ナル一條ノ峻路ヨリ「バルカン」ヲ跨ヘ而後此「ブカ」峡ヲ攻取リタルナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ヤ」ハ三万二千ノ兵ヲ将キ「ビゼルテ」ヨリ英ニ「アドリヤノポル」ノ除ニ在ル魯兵ト防戦スル為メ出陣セリ

△廿四日

維納二十二日君士坦丁府ヨリノ報ニ「アハリヲパシヤ」新任ノ外務卿「レイヤルド」氏ニ告ケ云ク前英政府カ其兵ヲ君士坦丁府ヘ入ハ、前ニ土国ノ邦土ヲ全フスルヿヲ慥メシ上ナラデハ土政府ハ土京ヘ英兵ヲ置クヿヲ許サヽルベシト依之「イヤルド」氏ハ土帝ニ謁見ヲ請セシガ未タ許可ヲ得ズ「リンタクサイチユニグ」新聞ニ記シテ云ク「レイヤルド」ハ魯兵「アドリヤノポル」ヘ進ミ込ミ次第地中海ニ在ル英国艦隊ヲ直チニ君士坦丁府ヘ乗入ラシムベキ命ヲ受ケリ仝廿三日君士坦丁府ヨリノ報ニ土政府ハ英兵ガ「ガリポリ」ヲ占拠スルヿヲ不意セリト然ルニ竜勤ヨリノ報ニ拠レハ英政府ハ右ノ

半嶋ヘ英兵ヲ送ルヿノ月的ヲ廃セリト、「タグブラフト」新聞ニ「ヒユムラ」ヨリ十九日付ノ電報ヲ載セヲ云ク「スリウノ」ニ在ルガ「ケイ」ノ「ユニガクラ」ノ間ニ在ルガ「ケイ」ノ近辺ニ於テ戦アリ魯兵ハ「スリウノ」ヲ棄テリ「プレス」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記メ云ク「ビゼフヤ」ハ追放ニ処セラレタリ当分陸軍卿ハ撰任ナカルベシト

竜勤廿三日「スタニタルト」新聞ニ云ク英政府ノ「ガリポリ」半嶋ヲ占拠スルノ説ハ全ク虚誕ニメ只政府ハ「マルタ」ヘ兵ニテ「ブラルタル」ノ兵ヲ増スヿニ決シ来ル廿六日「ユフラテス」船ハ千五百人ノ兵ヲ載セ「マルタ」ヘ向ケ開帆スベシ又カロコチル」並ニ「マラバル」其他ノ運送船モ各千五百人宛ノ兵ヲ載セ続テ開帆スベシ此兵隊ハ妻子ヲ連レ行カザルベシ

「モーニングポスト」新聞ニ云ク英政府ハ地中海ノ艦隊ヘ若

千海兵ヲ送ルニ決セリ

「アドリヤンポル」ヨリ「レイラルアゲンバシヤ」ハ其部下ノ兵中ヨリ一万八千人ヲ既ニ「ヤンボル」「エニザクラ」ヘ向ケ送レリ残兵ハ自ラ指揮メ今所ヘ発程スベシ「アドリヤノホル」ノ固メハ未ダ廿六日迄ニ悉ク落城スベシ

君士坦丁府廿二日「ムクタルパシヤ」ヨリノ報ニ去ル十九日魯兵ハ「テルナチー」ヲ出陣メ「ラクラ」ニ在ル土ノ右翼ヲ襲ヒシガ劇戦ノ後引退ケリ此戦魯ノ死傷ハ二百五十人ニメ我兵即死三十五人手負五十八人ナリ

「ヲデッサ」廿四日「アルゴナフト」船ハ昨日ダニューブ河口ヲ巡邏セシ土ノ軍艦三艘并ニ商船十艘ニ出会ヒ「アルゴナフト」船ヨリ「モルチール」砲廿発ヲ放チ無難ニシテ「ヲチヤコフ」ヘ帰港セリ

公廿五日

千八ノホ廿日「ニヨライ」親王ヨリ皇帝陛下ヘノ電報ニ云ク「バルカン」山ヲ踰ヘ三峡ヲ乗取リシ好新報ヲ陛下ヘ祝セントス去ル七日騎兵「ボルガリヤ」ノ旧都府「チルノホ」ヲ乗取リシ後予ハ自ラ歩兵ヲ率キ全所ヘ出陣シ十二日「デネラール」グルコ」カ指揮スル騎兵ノ分隊ヲ進メ「バルカン」ノ山峡ヲ乗取ルベキ旨ヲ差図セリ翼十三日我兵ハ大労ヲ堪ヘ小銃一発モセズシテ「バルカン」山ヲ踰ヘリ、十四日ヨリ十八日迄先鋒隊ハ毎日連戦勝利ニメ「ワンチヤ」川筋ニ沿フテ進ミ南方ヨリ「シプカ」ノ大峡ニ達セント骨折リ十四日ニハ「シプカ」ニキヨイニヲ乗取リ十五日ニハ「ウオフロルキ」村ノ近辺ニ於テ敵ヲ破リ公日「ユ」ニザクラ」ヘノ電線ヲ毀チ十六日ニハ「キレラ」村ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

近辺ニ於テ劇戦アリ十七日「カザハリク」ヨリ
取リ而メ予ガ「プロホ」ヘ送リシ歩兵聯隊ト「ドン」ノ「カザ
ク」第三十聯隊ハ十七日ニ「シプカ」峡ノ周
メ「カザック」聯隊ノ指揮官「コロネル、ヲルロフ」ノ指揮スル右翼
ハ劇戦ノ後「ヤニナ」峡ヲ乗取リ中軍並ニ右翼ハ接戦ニテ
数ケ所ヨリ敵兵ニ迫リテ敵ヲ郤ケシト雖モ「シプカ」峡ハ得
能ハサルニ何ト十一ハ此場所ハ敵兵十四ケ大砲
八門ヲ以テ固メタレバナリ十九日「プリエスミルスキー」ハ
「ゼネラールグルコ」ガ既ニ一昨夕五時ニ於テ「シプカ」村ヲ乗
取リシト聞キ早朝ヨリ兵ヲ指揮ノ進ミシカ敵兵ハ抗抵ゼ
ズ更ニ一発ノ銃ヲ放タズシテ西ヲ指テ逃去セリ此時土兵
ハ大砲八門隊旗三旒ヲ棄テ去リ、陛下ノ兵士勇戦ナル
ニヨリ「ベルカン」山ノ険難ナル通路ヲ占メ而シテ三峡ハ既

ニ我カ手ニ入リ
「アレキサンドロポル」ヨリノ電報ニ一昨日土
兵ハ「ゼネラール、アルカグ」ノ左翼ニ攻来リ今時ニ「ヲチュム
ケル」地名ヨリモ海手ヨリモ軍艦ヲ以テ砲撃シ而シテ陸兵ノ
前進ヲ助ケシガ我カ大砲並ニ歩兵ノ劇シキ砲ニヨリ土
兵ハ直ケニ引退キ而メ軍艦モ亦砲発ヲ止メテ退ケリ但シ
其一艘ハ我カ砲撃ノ為メニ損セリ此戦ニ我兵ノ扱リシ位
置ハ要害ナルニヨリ死傷甚タ少カリシト、土船「バツム」ニ来リ
「ヲチュムケル」ヘ兵士ヲ陸揚ケシ而メ「アルカズ」ハ種ヲ船ニ載
セ連行ケリ、「ムクタルパシヤ」ノ将ユル四十大隊ハ「アラビヤ
カ」山ノ北而ニ在ル「ヲチンケ」ニ「カルハタ」ノ間ニ陣ヲ敷
セリ

セバストポルハ廿四日ノ報ニ汽船「空タ」号ハ昨日「キスチンジ」

工部省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

「リニト」ヲ甲板ノ明リ取リ及ヒ出入口ヨリ窺ヒ蘭語「ロイク」ナル者是ナリ

ノ辺ニ於テ土ノ甲鉄艦ニ逢ヒ五時間ノ砲撃ヲ為セリ敵ノ甲鉄艦ハ大ニ損害ヲ受ケ砲発ヲ止メリ、「ウスタ」号ハ敵艦ノ諸「リニク」ヨリ蒸気ノ洩シ出ルヲ見テ之ヲ奪ハントシ思ヒシガ他ノ甲鉄艦二艘応援ニ来ケリシニヨリ無余儀「セバストポ」ヘ帰港セリ此戦ニ我船即死十三人内一人ハ士官十人内一人ハ士官ニ人ハ重傷ヲ負ヘリ船モ大ニ損セリ

君士坦丁府廿四日英大使「イヤルドン」ハ頃日頻リニ土帝ニ「セワストポ」寨ノ砲撃ヲ始メシヨリ「ミクレケ」寨ノ砲撃ヲ始メシヨリ英土両国ノ為メ肝要ナル事件ヲ商談スルノ様子アリシ誰モ知ルモノナシ

「ブカレスト」廿四日「ドブルザ」ニ在ル二方ノ土兵ハ「シリスト」ヲ去キ「ボルカ」ニ後ニ在ル土兵ハ魯兵ノ進入ヲ妨ケン為メ「ボサルケク」ヘ集レリ

君士坦丁府廿三日「ムタタルパシヤ」ハ再ヒ陣ヲ進メリ「カルス」城トハ電線ノ通信ヲ再開セリ「バルカン」ノ戦場ヨリハ新報ナシ、「シプカ」ヨリハ「アブヅルケリムパシヤ」「アブヅルケリムパシヤ」ノ両人ハ当府ヘ着セリ

巴里府廿三日君士坦丁府ヨリノ報ニ「アハリフパシヤ」ハ即今「シユムラ」ニ在ル「ナミクパシヤ」ヲ使者トメ魯帝ヘ遣ハスベキヲ土帝ニ勧メリ而メ君士坦丁府ノ會議ニ加ハリシ各国ヘハ「ナミクパシヤ」ノ使行ハ和睦ノ目的ナル旨ヲ通知スベシトアラン」ヨリ「タニ」新聞ヘノ電報ニ「クレート」嶋ニ於テ一揆起レリト

竜動廿四日「ロルドデルビー」ハ上院ニテ「グランビル」ニ答ヘ

ニハ地中海ニ在ル我カ兵数ハ不足ナルニ由リ方今欧州
ノ形勢穏カナラサルニヨリ仝所ヘ三千ノ兵ヲ送ルニ決セ
リ然ルニ諸新聞ニ種々ノ風説アルハ仝ク此一事ヨリ出デ
シモナリ「アルスコート」紙ハ「ロルドハルチンガトン」ニ答ニ
曰ク英政府ガ地中海ヘ兵ヲ送ル儀ハ仝ク「マルタ」ニ在ル兵
兵ノ不足ヲ満タス為メ而已ナレバ別ニ返答ヲ難シト

仝廿六日

「チルノキ」廿二日「ニコライ」親王ヨリノ電報ニ七月廿日中将
「ミハデル、ミユルドネル」ハ第五「ヂヴヰヨン」ノ第一「ブリカード」
「ドー」ヲ将トシラ「プレウナ」府ヨリ北ノ方ヨリ攻メ「コストロマ」聯隊
ハ大砲八門ヲ以テ東ノ方ヨリ攻メシガ敵ハ意外ニ大勢ニ
リシヲ以テ我兵利アラサリシ中将「ミハデル、ミユルドネル」ハ
「ベラ」街道ヘ陣ヲ退ケリ翌廿一日「ミハデル、ミユルドネル」援兵ヲ得テヨ

「ブリカード」ハ二聯隊ニシテ一聯隊ハ三大隊ヨリ
ナリ、

リ兵隊ヲ休息セシメ而メ再ビ収拾スルニ従事セリ土兵ハ
「プレウナ」ニ留止マレリ第五「ヂヴヰヨン」ノ第一「ブリカード」
ノ死傷ハ即死第七「アルハンゲル」聯隊ノ指揮官大佐「ローゼ」
ニボム」兵ニ士官十四人手負セネラール「クノルリング」兵ニ
士官三十六人兵卒ノ死傷千八百七十八人ヨリ「コストラマ」
聯隊ノ司令官大佐「グレイヒハウス」ハ戦死セリ其他審ナラ
ス騎兵兵ニ大砲隊ノ死傷ハ甚ダ少ナシ
「ベラ」廿四日陸軍卿ヨリノ公報ニ「ブライロ」ヨリ中将「チン
メルマン」ノ報ヲ転格メニ「ダノ大尉」ヅバリ「ハ」ハ汽船「ニコライ」
号並ニ「カーテル」船二艘ヲ指揮シ「ドリストリヤ」ノ河岸二十
「ウヨルスト」ノ処ニ在ル土ノ小営ヲ砲撃セシニ土兵ハ引退
ケリ而メ又土ノ甲鉄艦一艘ニ出会ヒ千「サーゼン」ノ距離ニ
近寄リテ砲撃セリ「ニコライ」船ヨリ打出シタル第五番目ノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

弾九ハ甲鉄艦ノ甲板上ニ火ヲ放ケシガ土卒迅ク消防セリ又第十番目ノ弾九火ヲ起セシ甲鉄艦ハ砲発ヲ止メ乗込人数ヲ上陸セシムル為メ河岸ヘ近ツケリ此上陸ノ間ニ「コライ」船ヨリ「ミトラリヨーズ」ヲ以テ土兵ヲ脳マシメリ此時「ミリストリヤ」ヨリ汽船一艘甲鉄艦一艘来リ又今時ニ野戦砲ヲ河岸ニ備ヘ付ケシニヨリ我船ハ砲発ヲ止ケ徐カニ引退ケリ土ノ甲鉄艦ハ大ニ損害ヲ受ケ乗組人ニハ死傷多カリシ我船ノ損所ハ甚タ僅カニメ死八土工兵ノ大尉マクニモ外ケ一名ノ死傷十七「ニコライ」船スチヨクノ河上ヨリ土ノ汽船五艘甲鉄艦二艘下ルヲ見「スロボッゼ」ノ砲墓ヨリ砲撃メ汽船三艘ヲ焼撃シ又一艘ハ打沈メリ

「アレキサンドロポル」ヨリ五日参謀長ヨリノ公報ニ「ゼネラー

ル、アルカゾコ」ノ分隊ノ中軍ハ去ヌ二日「メルクルカ」村ノ辺ニテ敵営ヲ衆取シリ此時敵ハ四十八人ノ死厳ヲ遺シ又小銃并ニ兵粮若干ヲ我手ニ残セリ我兵ノ死傷ハ郷兵ノ士官一人卒二人ナリ仝勢ヲ以メシ時分隊ノ右翼ハ艦隊ニヨリ防禦セシヲ生ムケルヨシ地名ヲ砲撃セリ「ムクタルバシヤ」ノ兵ハ最前ヨリ場所ヲ頻ニ要害中也、「アルタハニ」ノ前ニ布陣セシ「カマロフ」ノ分隊ノ表面ヘ「ヲルチ」ヨリ来リシ土兵凡ソ三千人現出セリ

廿四日海軍卿ヨリ「コンスタンチン」親王ヘノ公報ニ云ク(第一)「セバストポル」ヨリ「アドモラル、ニコライ」ノ電報ニ昨月廿七「エステン心」ノ辺ニ於テ我カ汽船「ウラスタ」ハ土ノ甲鉄「コルヘット」艦ト五時間戦ヒシ後今暁未明当港ヘ帰着セリ此戦ニ士官二人卒九人即死シ士官五人卒十八人手負セリ本日尚

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

チョールナンザンベナルスブルゼ載セタル斬ニ於ハ浸船「ウスタ」ハ甚ダ損害ヲ受ケ水準下ニ沈ミ又十二「インチ」砲破裂弾一ツ甲板ヲ貫キテ船先ニ於テ破裂シ火薬庫上ニ火ヲ起セシガ火事ハ直ニ打消セリ士官並ニ乗組人数左ニ自殺矢等ハ神妙ナル事ヲ表セリ

委細ノ報知ヲ待ツ而已「第三」去廿一日浸船「ウスタ」号ハ「ルーメリヤ」ノ海峡ヲ巡邏ノ為メ出カケタリシガ廿三日ノ朝「キュステンジ」ヨリ三十五海里ノ距離ニ於テ朝八時ヨリ午后一時半迄ニ大甲鉄艦十三里行ノ早サヲ以テ進ミ来ルヲ認メ直ニ戦ノ準備ヲ為シ十一「インチ」ノ「ボム」二中「ウスタ」号ハ楫綱（カジツナ）ヲ損シ之ヲ修復スル間ニ土艦ハ小銃ノ達スベキ距離ニ近寄リ砲撃ヲ為シ十九我船ノ艦（ヘサキ）ヘ飛来リ火薬庫ノ上ニテ破裂シテ火ヲ起セシカ直ニ之ヲ打消セリ此時ノ兵士ハ大ニ力竭ケ動ケリ死傷ハ即死士官二人重傷士官二人軽傷四人内一名ハ船将ナリ卒ハ即死九人傷十六人ナリ「ウスタ」ヨリ打出ダセシ「ボム」ノ内一発ハ敵船ノ舵ニ落テ破裂シ又一発ハ敵船ニ命中セシガ破裂セザリシ又一発ハ敵艦ノ塔郭台内ニ於テ破裂セリ此時敵艦ハ戦ヲ止メテ引退ケリ「ウスタ」ハ廿四日ノ朝「ゼバストポル」ヘ帰港セリ海軍砲隊中佐「チェルノフ」ハ戦死セリ

（第三）「ウスタ」号ノ乗込ニテ戦死セシ士官ノ姓名ハ砲隊ノ中佐「チェルノフ」下士官「ヤコフレフ」並ニ兵卒九人ナリ尋常ノ重傷ニハ大尉「ハイルベルト、ミヒ」並ニ卒二人ナリ軽傷ニハ大尉「グルトコフ」下等士官「ペトロフ」並ニ卒四人ナリ軽傷並ニ拵傷（こしらえきず）ニハ船将「ウラヒミルベルト、ミヒ」並ニ「ユレケルヤコフレフ」卒十一人ナリ只今落手ノ報知ニテハ右ノ「ミハイルベルト、ミヒ」ハ死去セリト

「ウスタ」ハゼホ廿三日今朝三時頃「ルスチュク」ヨリ土船ハ艘「ガラ」ヘ行クヲ見ラ魯ノ砲塁ヨリ砲撃シ三艘ヲ焼キ一艘ヲ打沈メリ他ハ皆無事ニ通行セリ敵船内ヨリ破裂スル者ノ様子ヲスラ見レハ敵船ハ弾薬ヲ積ミタル者ト見ヘタリ

維納廿四日君士坦丁府ヨリ「フレーム紙ヂンブラト」新聞ヘノ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

翠旗ハ「ホメット」ノ旗ニテ此旗ヲ挙グルキハ回民ハ皆其教戦ノ為メ身ヲ殉ヒテ他教ノ敵ヲ殺スヘキ例ナリ

電報ニ土政府ハ翠旗ヲ挙ルニ決セリト公称セシ五日ノ電報ニ魯土ノ間直接ニ和睦ヲ商議スルトノ評判ハ大ニ世論ヲ動揺セリ、「ユーントアントラシー」ノ考ニハ墺政府ハ魯土ノ直談判ヲ妨ケントス欲シ「アルシギツクアルブレツト」ノ考ニハ直談ノ方便利ナルベシトノ説ナリ「プレス」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ新聞ヲ記メ云ク「アドリヤイツポル」ノ近辺ニハ十六個ノ塁壁ヲ構ヘ一塁毎ニ大砲四挺ヲ備ヘリ、「セナニヲ」ヨリ公新聞ヘノ報ニ「モンテネグロ」勢ハ「ニクシチ」ノ周囲ニ在ル砲臺ヲ乗取リ生捕多シト又公新聞ニ「ブカレスト」ヨリ電報ニ四千人ノ「ローマニヤ」勢ハ「ニクシチ」ヲ囲ムカ為メ、グラニユーブ」ヲ越セリト

「ラダサ」廿四日「ベトロウエチ」ハ「ニクシチ」ヨリ乃ヲ占メ「ニクシチ」ノ近辺ニ在ル砲臺ヲ乗取リ又多ク兵粮ヲ分捕セリ

君士坦丁府廿四日「レイヤルド」氏ハ基督民ヲ保護スル為メ軍艦「ビド」号ヲ「カウルナ」ヘ送リ、「コント、ガチナ」ハ逃去ル基督民ヲ塡国ノ「ロイド」社ノ郵船ニ載スルコトニ取計レリ

維納廿四日「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ「プレス」新聞ニ記メ云ク是迄「ラカール」並ニ「ツルンマグレリ」ニ布陣セシ「ローマニヤ」勢ハ自己ヤー勢ハ「カラピヤ」ヘ赴クベキ命ヲ得メリ「ローマニヤ」勢ハ「グラニユーブ」河ヲ越サズシテ只第二ノ働キヲ為スタメニハ「ダニユーブ」河ヲ越サザルヘカラス、「ネラール、マヌ」ガ指揮シテ「セネラール、マヌ」ガ指揮シテ「ダニユーブ」ヲ渡ル而已ナルベシ、独逸「セイチンゲン」新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ載セテ云ク昨日「ドマ」ノ河口「ピルゴス」嶋ノ辺辺ニ於テ魯ノ先鋒隊ト戦アリシ、「ポリチスコルレスボー」ニテ「ツン」新聞ニ「セチニヲ」廿二日ノ電報ヲ記メ云ク「モ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ニテネグロ」勢ハ「ニクシチ」府並ニ砲臺ヲ見下ロス「トレベシ」ノ高地ヲ奪取レリ其後ゴルノボルスキー」ノ砲臺ヲモ五十三人ヲモ奪取レリ又翌廿三日「ラボヴィッツ」ノ砲臺ヲ抜キ三十人ヲ生捕レリ砲基内ニ於テ馬並ニ若干ノ兵糧武器等ヲ分捕レリ

竜動廿五日、タイムス」新聞ニ云ク英政府ハ「ベシカ」湾ニ在ル艦隊ヲ不日ガリポリ」ヘ廻スベキ令ヲ下セリト、維納ヨリノ報ニ拠バ今哥ニ在ル土国公使館ニテハ魯土ノ間ニ直談アルトノ報知ハナシト

公廿七日

「ペテルブルグ」廿五日陸軍卿ヨリノ公報ニ曰ク将軍「セメカ」ヨリハ電報ニ廿一日敵船「キリミヤ」半嶋ノ海岬「アルミタ」並ニ「カラウゼン」ノ近辺ニ出現ス夜十二時我ガ自投兵ハ小船ニ乗込ミ海上ノ火ヲ認ムル為メ出カケタリ此時敵船ヨリ砲発シタリシガ我船ニ達セザリシ敵船ハ無気脚船ヲ卸シテ陸地ヘ向ケ進来リシガ我カ歩兵ノ発砲ニ逢フテ退ケリ夫ヨリ夜ノ明ケテ本船ニ亦沖ヲ指テ去レリ此外汽船一艘「バルタニテ」ノ表面ニ見ヘタリ

維納廿六日「ベステルロイド」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記載シテ云ク「バルカン」山ノ街道ハ悉ク魯兵ノ手ニ入レリ「ゴニューブ」ノ土兵ハ甚タ危ク土兵ノ病人ハ百ニ付十五人ノ割合ヨリ下ラズ独逸「サイセンゲ」新聞ニ云ク「ゼネラールケンメルマル」ノ兵ハ「ビリストリヤ」ニ達シ今斯ヲ囲ムノ用意ヲナセリ「ウルンマグレリ」ヨリノ報ニ魯兵ハ「ビゲフバ」ニヤ」ノ率ユル兵ト戦テ大ニ勝利ヲ得シトノ説アリ仝新聞ニ「ゴルツサ」ヨリノ電報ヲ記ノ土政府ハ魯兵ガモシ君士坦丁

「ゴルツサ」ハ「マルモラ」海ノ南即チ亜細亜領ニ在ル大府ナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

府へ近寄ハサル様ニ注意スベキ旨ヲ達セリト

君士坦丁府廿五日「イヤルド」氏カ土政府へ勧メ英国艦隊ヲ「ダルダネル」へ乗入レントスルノ事件ハ未タ捗取ラズト、「フェリポハル」ノ回教民ハ「アリ帥」へ電信ヲ送リ土帝へ休戦セラレンコトヲ嘆願セリ

伯林廿六日当地交際家ノ説ニハ日国カ中立ヲ離ルヽハ近キニ在リト

「ベスト」廿六日「ベスラルロイド」新聞ニ伯林ヨリノ電報ヲ記メ曰ク「プリンスゴルチャコフ」ハ遣外公使ヘ電信ヲ送リ即今魯土ノ間ニ直談判アルトノ説ハ全ク虚ニシテ専ラ魯国ヨリ述ベ置キシ如ク東邦疑問ノ儀ハ欧州総体ノ性質ノ者ト看做セリト

「プリンスレイロ公使ニ駐剳スル日大使ノ谷ナリ」

羅馬廿五日「リベルタ」新聞ニ云ク昨日ヨリ各国政府間ニ昏翰ノ往復甚タ繁ク或説ニ拠ハ其趣意ハ諸国艦隊合カメ君士坦丁府ニ住スル外国人ヲ保護スルト夫ノ各国中独意ヲ以テ事ニ従フヲ妨ケントスル両様ノ目的ニ係ルベシト云フ

維納廿五日「ポリチスユルスポンゲニッ」新聞ニ君士坦丁府ヨリ惹ナル根源ヨリノ報ヲ記メ云ク魯兵ノ「バルカン」山ヲ越ヘニ以来当府ノ物情甚タ騒然タリ過日「ボルガリヤ」ヘ送ラレシ日国大使館ノ書記官「ギルスレイス」ヘノ報告ニ「ユニザクラ」ノ基督民ハ土耳格人ニ暴殺サレリト又昨日希臘国ノ公使「コンスタ」ヨ左ノ電報ヲ得タリ云ク即今「バルチ」ニ於テ土耳格ハ大ニ基督民ヲ屠ル然レ共誰レ氏之制スル

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

者ナキヲ以テ明日ニ至ラバ悉ク屠殺セラルベシ此電報ヲ諸公使ヘ示サレヨト依之テ「ワルナ」ヘ向ケ出帆スル「ロイド」社ノ汽船ハ「バルチック」ヘ寄リ仝斯ヘ道来リシ基督民ヲ積込ムベシ」「イヤルド」氏モ「ラビド」号船ヲ「バルチック」ヘ送レリナミクバシヤ」ヨリノ報ニ土兵ハ病気ト脱走トニテ四万人ヲ減セリトノ言ヲ聞キ土帝ハ大ヲ気ヲ喪ヘリ仝新聞ニ北特堡府ヨリノ電報ヲ載セテ云ク仝府ノ権家ハ現今英国ノ挙ズ若シ英兵ガ土兵ト連合スルニ至ラバ始メテ戦ヲ開クニ至ハベシト「プレス」新聞ニ君士坦丁府ヨリハ電報ヲ記メ云ク魯兵ハ「マニカリヤ」並ニ「メゾハ」ヘ進ム「ヨリ「エセプト」兵ヲ指揮スル「プリンスハッサンパシヤ」仝出帆不日大戦アルベシ「ベシカ」港ニ在ル英国艦隊ノ士官等ハ直ニ船ヘ帰艦スベキノ命ヲ受ケタリト或説ニ拠レバ近日英国艦隊ハ「ダルダネル」峡ヘ乗入ルベシト「タクブラ」新聞ニ「コムラ」ヨリノ電報ニ曰ク「プレウナ」ノ戦後ヲスロンパシヤ」ノ騎兵隊ハ魯兵ヲ「ウナ」迫撃セシ後再ビ「ボルガン」ヲ迫逐セリ而メ土ノ先鋒隊ハ既ニ仝斯ヘ進入セリ土兵ハ即死百五十人傷千人アリト「ツルコ」ヨリノ報ニ土国陸軍卿ハ魯兵ノ占メザル「ブルガリヤ」国ノ基督民ヲ隊伍ヘ編入セントノ命ヲ下セシガ「ボルガリヤ」人ハ募兵ヲ嫌フヲ逃去セリ

仝廿八日

海軍卿ヨリ廿六日付ヲ以テ「コンスタンチン」親王ヘノ電報

按スルニ士官等ノ他行トハ本船ニ在ラサル者ヲ云フナルベシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

ニ「セバストポル」ニ在ハ「アドミラル」、ニコノ「コ」ヨリ返答セシ
電報ニ云ク水夫二人ノ容体ハ不慥ナレ共其他ノ手負人ハ
慥ニ快復スベシト「コロツコフ」ハ重傷ニアラザレ共全身挫傷
ヲ受ケリ今氏ノ軍服ニハ銃丸ノ穴多ク本日余ハ今人ノ道
途スガラ見タリ、多クノ士官並水夫等モ戦争ノ除ハ何モ感
ゼザリシガ皆挫傷ヲ受ケシト見ヘリ即今皆疲労ニ臥セリ、
昨朝兵式ヲ以テ我カ海兵ノ犯殺ヲ北ノ墓所ニ葬レリ
「ボツム」二十七日「クタルバコヤ」ハ魯兵ノ中軍ヲ攻ムル為
メ用意セリ
「ブカレスト」二十七日新総督「マクメドアリパシヤ」ハ「ボルカ
ニ」山ニ在ル魯兵ノ帰路ヲ断タン為メ「シユムラ」近辺ニ大兵
ヲ集メリ
「ヨルリウオ」二十七日「ロマニヤ」勢ハ次ノ一週間中ニ悉ク「ダ
ニユーブ」ヲ越シ獨カヨリテ「ウチ」ヲ囲ムベシ
君士坦丁府二十七日大政大臣ハ免職セラルベキヲ疑ヒナ
カルベシト「アブヅルケリム」並「ケフバ」ニ
クベシ
維納二十六日「プレス」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記メ
云ク「ミザットパシヤ」ハ土帝ヨリ君士坦丁府ヘ招カレ既ニ「プ
ロヒセエー」ヲ出發セリ不日維納ヲ経テ土京ヘ赴クベシ
ボルスムース」二十六日今タ「エフラチス」ヨリ
千四百八十一人ヲ乗セ「ガブラル」ハタル」並「マルタ」ヘ向ケ開帆
セリ
倫敦廿七日「ーテルアゲン」ヨリノ報ニ「ウールウィチ」ノ武庫ニ於テハ陸軍卿ノ差図ニヨリ野戦砲ノ機械並弾薬類ヲ
製造中ナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

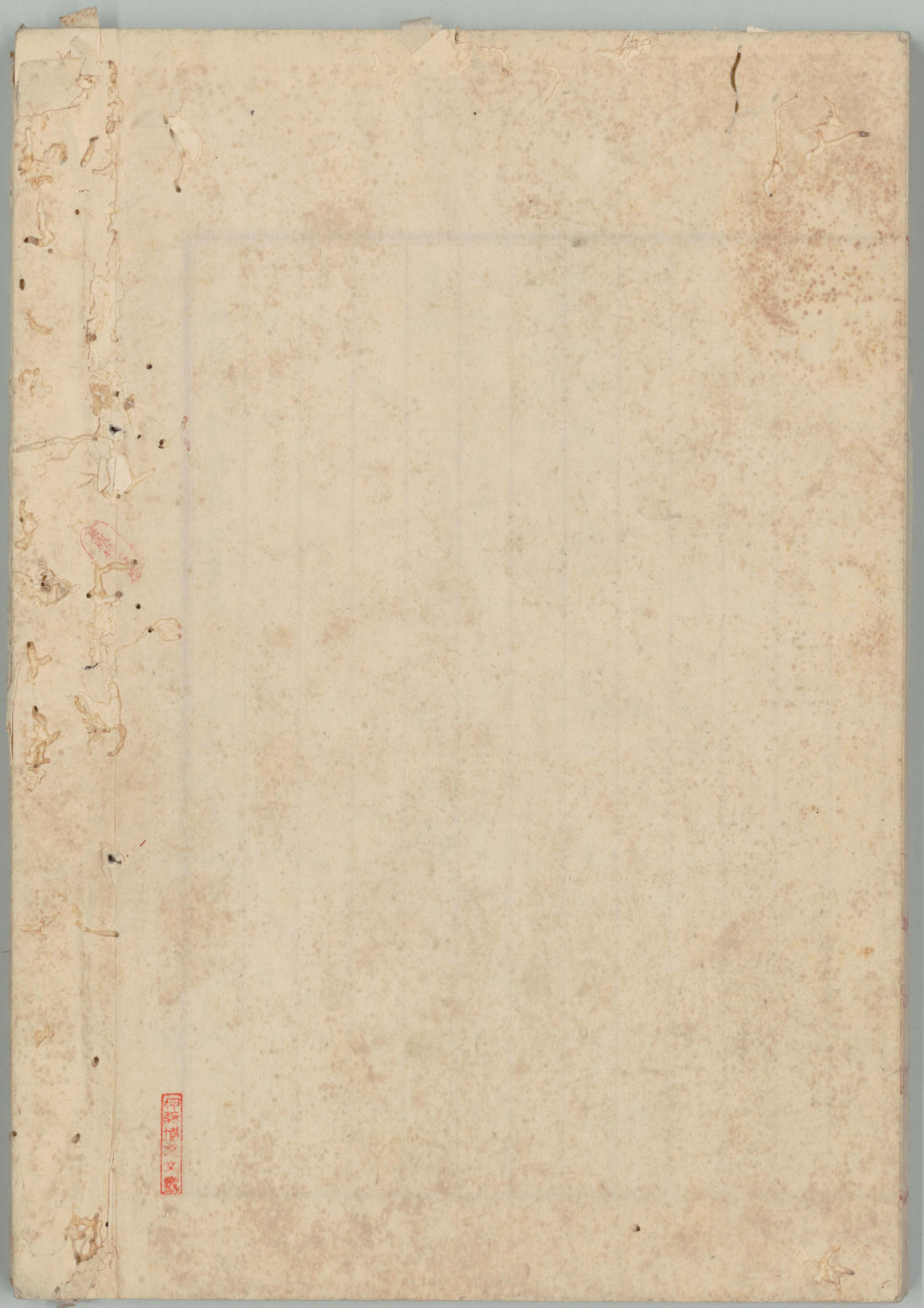
維納二十六日「ポリチシエルスポーデンツ」ニテネグロ」勢ハ「ニク
リノ電報ヲ記メ云ク一昨二十五日モニテネグロ」勢ハ「ニク
シチニ在ル「グラチナ」並「モスコ」ノ砲塁ヲ奪取リ尤モグラ
チナノ土兵ハ自ラ武器兵粮ヲ棄テ「ニクシチ」ヘ逃去リ
又土兵ハ「ベサル」ノ近辺ニ在ル「ナヴグ」砲塁ヨリモ引退ケ
リ「モンテネグロ」勢ハ「トレビニ」山ニ五百「メートル」ノ空濠ヲ
設ケタリト

維納二十七日澳国軍務理事官ヨリ陸軍卿ヘ送リシ電報ニ
曰ク「スレイマンパシヤ」ヲ破リ大砲十門ヲ分捕リ「エニバ
サル」ヲ乗取リ「アドリヤノボル」ヨリノ報ニ「プレウナ」ニ於
テ魯兵ノ敗北ハ兵器上ニ於テ影響ヲ及ボサヾルベシ

○昨二十七日「バンク、デリユシー」魯国銀行ヨリ布告シテ云ク「ポ
ンク、デ、リユシー」並「モスコー」ノ支店ハ両所ニ於テハ売却セ
シ東邦公債証券ヲ売盈セリ依テ其ハ発賣ヲ鎖セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2

維納二十六日發ノ記事ニヨルニ墺
ヨリ電報ヲ記ス(一昨二十五日
七千ノ在ベルグラード並ビニ
十二日土兵ハ自ラ武器兵器ヲ棄テ
又土兵ハ逃亡ニ在リテ逃亡
リテ來ルモノ多シ敵ハ
維納二十六日獨國軍事理事官ヨリ陸軍卿ヘ送リタル電報
皇兵ハ(ベルグラード)ヲ取リ大
九十門ヲ分捕リ
ヲ取リ兵器上ニ於テ影響
ヲ取リ本營ヨリ
リテ來ルヨリ
○昨二十四日ニ
ヲ東北ニ
ヲ東北ニ於テ
ヲ取リ
ヲ取リ
ヲ取リ



国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 404-2